

キリングループ環境データ集 2012

Kirin Group Environmental Data Book 2012

おいしさを笑顔に

KIRIN

2012年9月 発行

目 次

この環境データ集について	3
---------------------------	----------

環境戦略と実績

マテリアルバランスと環境パフォーマンス	6
環境方針	9
環境目標、計画、実績及び評価	10
循環型社会の実現	14
生物多様性の保全	19
地球温暖化防止	21
水資源の保全	28
汚染の防止	33

環境マネジメントの状況

環境保全活動の推進体制	35
環境マネジメントシステム認証取得の状況	36
環境監査の状況	38
環境教育	39
環境関連法規の遵守、法規違反・事故等の状況	39
環境に配慮した商品の開発	40
環境に配慮したサプライチェーンマネジメント	43
環境コミュニケーション	45
環境会計	48
環境に配慮した投融資の状況	49
環境への取り組みの歴史	50

サイトデータ	56
---------------------	-----------

キリングroup概要	58
-------------------------	-----------

この環境データ集について

編集方針

キリンググループでは多岐にわたる持続可能性への取り組みについてステークホルダーの皆様へご報告する「サステナビリティレポート」を発行しています。「キリンググループ環境データ集」は、環境保全活動に関する情報開示のさらなる充実と各種ガイドラインへの対応を目指して、網羅的で詳細な情報を追加した別冊データ集です。

本環境データ集に掲載された見通し、目標、計画など将来に関する記述については、資料作成時点の当社の判断に基づくものですが、様々な要因の変化により記述とは異なる結果となる不確実性を含んでいます。またリスクと機会については、必ずしも投資家の判断に重要な影響を及ぼすリスク要因に該当しない事項も、積極的な情報開示の観点から記載しています。なお、当社グループは、事業に関連した様々なリスクを把握・認識した上で、リスク管理体制を強化し、その予防・軽減に努めるとともに、リスクが顕在化した場合の対応には最善の努力をいたします。

キリンググループの包括的なサステナビリティ情報は下記の URL をご参照ください。

「キリンググループサステナビリティレポート 2012」<http://www.kirinholdings.co.jp/csr/index.html>

対象期間

2011 年度（2011 年 1 月～12 月）

ただし、協和発酵キリンググループの環境データは、エネルギーデータを 2011 年 1 月～12 月、その他を 2010 年 4 月～2011 年 3 月としています。

また、必要に応じて過去 3 年から 5 年程度の推移を掲載しています。

なお、「環境マネジメントシステム認証取得の状況」は 2012 年 9 月現在の状況です。

対象組織の範囲（2011 年度）

国内酒類事業	キリンビール、キリンディスティラリー、永昌源、キリンシティ、キリンマーチャンダイジング、キリンアンドコミュニケーションズ、キリン物流、キリンエンジニアリング、キリンテクノシステム、キリン・ディアジオ、ハイネケン・キリン、メルシャン、メルコム、日本リカー、第一アルコール
国内飲料事業	キリンビバレッジ、キリンチルドビバレッジ、信州ビバレッジ
海外酒類・飲料事業	麒麟（中国）投資有限公司、麒麟・酒（珠海）有限公司、ライオン
医薬・バイオケミカル事業	協和発酵キリン、協和メデックス、協和発酵バイオ、第一ファインケミカル、麒麟鯤鵬（中国）生物薬業有限公司、BIOKYOWA、上海協和アミノ酸有限公司
その他事業	キリン協和フーズ、小岩井乳業、横浜アリーナ、横浜赤レンガ、キリンエコー、キリンホールディングス、キリンググループオフィス、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム、キリンリアルエステート

※2010 年以前のデータの対象組織の範囲については、次ページをご覧ください。

準拠した外部基準

GRI ガイドライン第 3.1 版

環境省 環境報告ガイドライン（2007 年版）

気候変動情報標準審議会（CDSB） 気候変動報告フレームワーク 2010（第 1 版）

お問い合わせ先

キリンホールディングス株式会社 CSR 推進部
〒104-8288 東京都中央区新川 2-10-1
TEL 03(5540)3454 FAX 03(5540)3550

作成部署

キリンググループオフィス株式会社 品質・環境推進部

環境データ算定方法

環境データの算定において使用した換算係数は下記の通りです。

エネルギー毎の発熱量	エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則（平成 18 年 4 月 1 日施行）の係数を使用。
CO ₂ 換算係数	燃料の CO ₂ 換算係数は「温室効果ガス排出算定・報告マニュアル」（環境省・経済産業省）の係数を使用。電力の CO ₂ 換算係数は、国内は各電気事業者が公表する排出係数、海外は IEA（International Energy Agency：国際エネルギー機関）「CO ₂ Emissions From Fuel Combustion 2011」より地域別の排出係数を使用。

2010 年以前データの対象組織の範囲

	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年
国内酒類事業	キリンビール、キリンディスティラリー、永昌源、キリン物流、キリンエンジニアリング、キリンテクノシステム、メルシャン	キリンビール、キリンディスティラリー、永昌源、キリン物流、キリンエンジニアリング、キリンテクノシステム、キリンシティ、メルシャン	キリンビール、キリンディスティラリー、永昌源、キリンシティ、キリンマーチャンダイジング、キリンアンドコミュニケーションズ、キリン物流、キリンエンジニアリング、キリンテクノシステム、メルシャン、メルコム、日本リカー、メルシャン軽井沢美術館	キリンビール、キリンディスティラリー、永昌源、キリンシティ、キリンマーチャンダイジング、キリンアンドコミュニケーションズ、キリン物流、キリンエンジニアリング、キリンテクノシステム、キリンオーストラリア、メルシャン、メルコム、日本リカー、メルシャン軽井沢美術館
国内飲料事業	キリンビバレッジ、小岩井乳業、キリン ヤクルト ネットステージ、キリンフードテック、ナガノトマト、コスモ食品	キリンビバレッジ、小岩井乳業、キリン ヤクルト ネットステージ、ナガノトマト、キリンフードテック	キリンビバレッジ、小岩井乳業、キリン協和フーズ、ナガノトマト	キリンビバレッジ、信州ビバレッジ
海外酒類・飲料事業	—	キリンオーストラリア、麒麟啤酒(珠海)有限公司、ライオンネイサン、ナショナルフーズ	キリンオーストラリア、麒麟（中国）投資有限公司、麒麟啤酒(珠海)有限公司、ライオンネイサングループ、ナショナルフーズ	麒麟（中国）投資有限公司、麒麟・酒（珠海）有限公司、ライオンネイサンナショナルフーズ
医薬・バイオケミカル事業	キリンファーマ	協和発酵キリン	和発酵キリン、協和メデックス	協和発酵キリン、協和メデックス、協和発酵バイオ、第一ファインケミカル
その他事業	—	キリンアグリバイオ、キリンホールディングス	協和発酵ケミカル、協和発酵バイオ、キリンアグリバイオ、横浜アリーナ、横浜赤レンガ、キリンエコー、キリンホールディングス、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム、キリンリアルエステート	キリン協和フーズ、小岩井乳業、横浜アリーナ、横浜赤レンガ、キリンエコー、協和発酵ケミカル、キリンホールディングス、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム、キリンリアルエステート

国連グローバル・コンパクト COP アドバンスト・レベル基準対照表（環境関連）

環境に関する基準	報告項目	記載ページ	
		サステナビリティレポート	環境データ集
基準 13： 環境スチュワードシップの分野におけるコミットメント、戦略、方針の記述	生物多様性保全宣言	36	19
	遺伝資源アクセス管理原則	37	20
	バリューチェーン全体を通じた環境への取り組み	32-33	-
	キリングroup環境方針	30-31	9
	サプライヤーCSR ガイドライン	58-59	43
	キリングgroup CSR の主な取り組み	18-19	-
	環境目標、計画、実績及び評価	-	10-13
	CO ₂ 排出量削減の取り組み（アクションプラン）	38	21
基準 14： 環境原則を統合するための効果的なマネジメントシステム	循環型社会の実現、生物多様性の保全、地球温暖化防止、水資源の保全に関するリスクと機会	34, 36, 38, 40	14, 19, 21, 28
	環境に配慮した商品の開発・循環型社会の実現	34-35	40-42
	バリューチェーン全体の環境負荷（CO ₂ 排出量）の把握	32	23-24
	環境保全活動の推進体制	-	35
	環境教育・環境研修	41	39
	コンプライアンス・環境関連法規の遵守	69	39
	お客様との対話	23	-
	報告内容に対するお問い合わせ先等	1	3
	地球環境との共生に関する対話	31	-
基準 15： 環境スチュワードシップのための効果的なモニタリング及び評価制度	環境保全活動の推進体制	-	35
	ISO14001 等の認証取得	-	36-37
	環境監査	41	38
	環境汚染防止への対応・環境関連法規の遵守	41	39
	環境に配慮したサプライチェーンマネジメント（サプライヤーへの協力依頼と進捗確認）	58-59	43-44
基準 16： 環境原則の統合による主な成果	マテリアルバランス	41	6-7
	容器の 3R の推移	34	14-17
	廃棄物の削減・再資源化の推移	35	18
	CO ₂ 排出量およびその推移	32, 38, 41	25-27
	水使用量／排水量およびその推移	40, 41	30-31
	PRTR 法第 1 種指定化学物質取扱量・排出量	-	34
	SO _x ・NO _x 排出量およびその推移	41	33
	工場・事業所内における水の循環的利用量	-	31
	ビオトープ、湿地保全	37	20
	ボトル to ボトルの取り組み	34	15
	国内におけるアルミ缶・スチール缶のリサイクル率	34	17
	法規違反・事故等の状況	41	39

環境戦略と実績

■マテリアルバランスと環境パフォーマンス

グループマテリアルバランス (2011年)

項目		単位	国内酒類	国内飲料	海外酒類・飲料	医薬・バイオケミカル	その他	合計
インプット	エネルギー	TJ	6,165	1,274	5,598	5,686	1,027	19,750
		%	31.22	6.45	28.35	28.79	5.20	100
	水(淡水のみ)	千 m ³	18,952	2,816	7,801	54,426	1,438	85,433
		%	22.18	3.30	9.13	63.71	1.68	100
	物質	千 t	757	104	557	186	20	1,623
		%	46.66	6.39	34.31	11.44	1.20	100
	原料	千 t	581	48	150	182	19	980
千 t		176	56	407	3	1	643	
アウトプット	CO ₂ 排出量	千 t	341	61	320	324	51	1,097
		%	31.11	5.53	29.20	29.53	4.64	100
	排水	千 m ³	17,891	2,162	6,336	54,763	1,063	82,215
		%	21.76	2.63	7.71	66.61	1.29	100
	廃棄物	千 t	186	23	209	92	3	514
		%	36.20	4.53	40.72	17.98	0.56	100
	NO _x	t	113	161	93	35	1	404
SO _x	t	1	3	23	12	2	41	

グループ総製品生産量 (2011年)

事業	単位	生産量
国内酒類	(酒類)	千 kl 2,789
	(その他)	千 t 111
国内飲料	(飲料)	千 kl 639
海外酒類・飲料	(酒類)	千 kl 981
	(食品など)	千 t 1,627
医薬・バイオケミカル	(医薬)	千 t 2.1
	(その他)	千 t 71.4
その他	(飲料)	千 kl 49
	(その他)	千 t 30

国内酒類事業 キリンビール、キリンディスティラリー、永昌源、キリンシティ、キリンマーチャンダイジング、キリンアンドコミュニケーションズ、キリン物流、キリンエンジニアリング、キリンテクノシステム、キリン・ディアジオ、ハイネケン・キリン、メルシャン、メルシャンフィード、メルコム、日本リカー、第一アルコール

国内飲料事業 キリンビバレッジ、キリンチルドビバレッジ、信州ビバレッジ
海外酒類・飲料事業 麒麟(中国)投資有限公司、麒麟啤酒(珠海)有限公司、ライオン

医薬・バイオケミカル事業 協和発酵キリン、協和メデックス、協和発酵バイオ、第一ファインケミカル、麒麟麒麟(中国)生物薬業有限公司、BIOKYOWA、上海協和アミノ酸有限公司

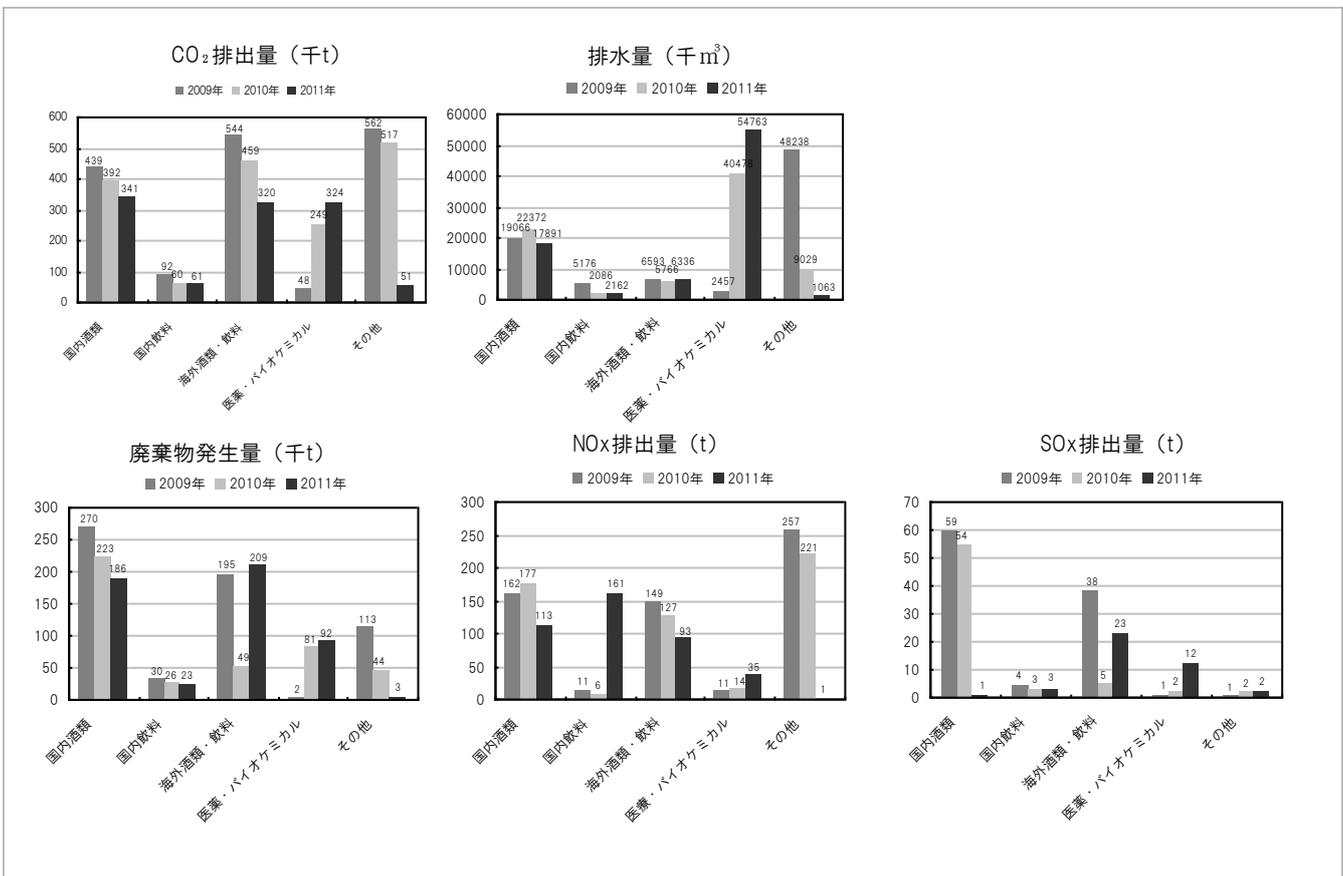
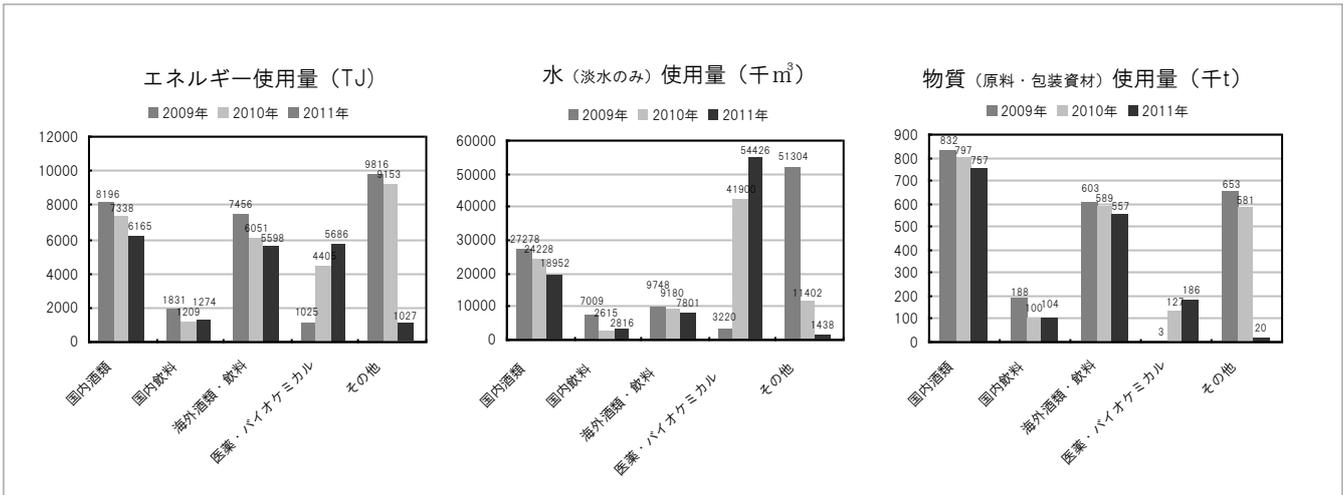
その他事業 キリン協和フーズ、小岩井乳業、横浜アリーナ、横浜赤レンガ、キリンエコー、キリンホールディングス、キリングループオフィス、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム、キリンリアルエステート

※協和発酵キリングループの環境データは2010年4月~2011年3月(エネルギーデータのみ2011年1月~12月)を報告対象期間としています。

セグメント別 環境パフォーマンスの推移

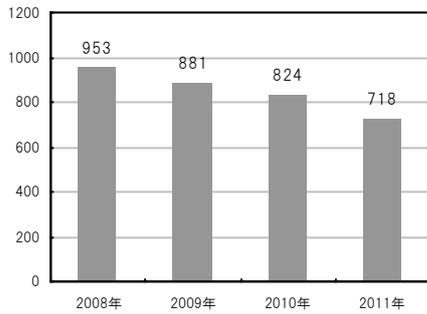
2010年度よりセグメントの区分を変更しております。従来「その他事業」にあったバイオケミカル事業（協和発酵バイオ、第一ファインケミカル）は「医薬・バイオケミカル事業」へ編入されました。このため、2009年から2010年にかけて、全般的な（特に水の使用量、排水量、エネルギー使用量、CO₂排出量の）パフォーマンスに著しい変化が現れています。

また、2011年には「その他事業」にあった協和発酵ケミカルが売却されました。このため、2010年から2011年にかけて、全般的な（特にエネルギー使用量、CO₂排出量、NO_x、SO_x排出量、物質使用量、副産物・廃棄物排出量の）パフォーマンスに著しい変化が現れています。

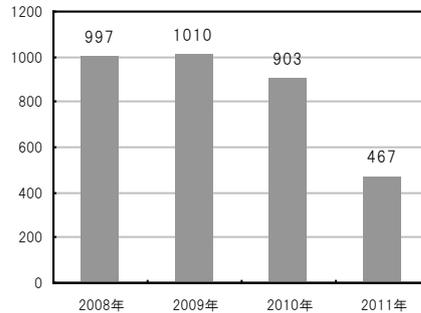


主要環境パフォーマンス

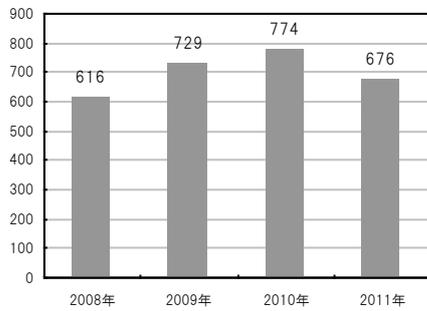
「製造、物流、オフィス」CO₂排出量
(千tCO₂)



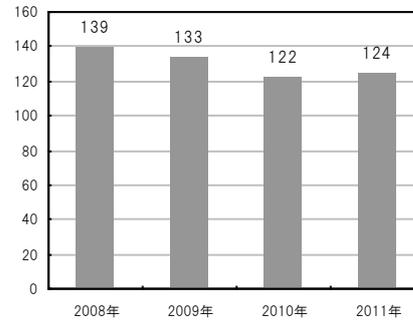
燃料の使用に伴うグローバルCO₂排出量
(千tCO₂)



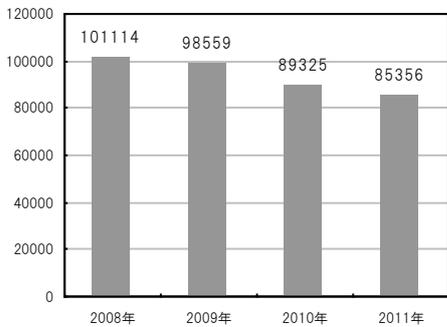
電力、熱、蒸気の導入に伴うグローバルCO₂排出量 (千tCO₂)



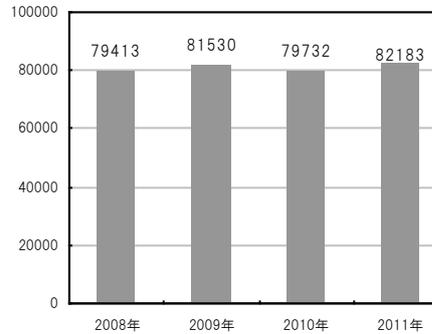
輸送に伴う国内CO₂排出量 (千t)



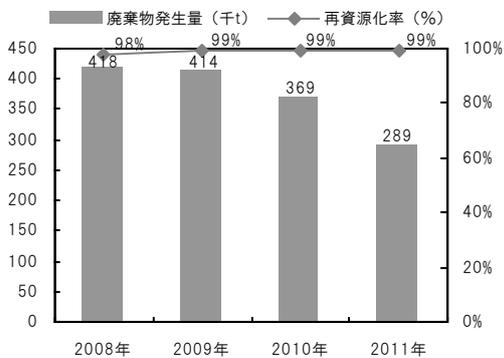
グローバル淡水使用量 (千m³)



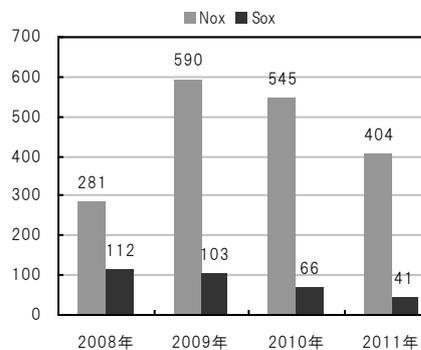
グループ全体の排水量 (千m³)



廃棄物発生量と再資源化率の推移



グループ全体のNO_x、SO_x排出量 (t)



※「輸送に伴う国内CO₂排出量」の集計期間は、各年共に4月～翌年3月です。

環境戦略と実績

■環境方針

長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン 2015 (KV2015)」

<p>キリン・グループ・ビジョン 2015 (KV2015)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いつもお客様の近くで様々な「絆」を育み、「食と健康」のよるこびを提供する ● 「発酵・バイオ」「モノづくり」「リサーチ・マーケティング」の技術を総合し、独自の価値と最上の品質を追求する ● 酒類・飲料・医薬を主力事業として、アジア・オセアニアのリーディングカンパニーを目指す
<p>目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「信頼」と「躍進」のブランドとして、KIRIN ブランドの価値向上を図る ● 各事業は独自の強みを基盤に自立し、3つの成長シナリオの実現を目指す ● 酒類事業と飲料事業の総合的な連携を強め、確固たる収益基盤を築く ● アジアの複数市場において、グループ内やパートナー企業との連携により事業成長基盤を築く ● 技術力を結集し、酒類・飲料と医薬をつなぐ「食と健康」領域において新たな主力事業を築く ● 大地の恵みを糧に業を営む企業グループとして、地球環境保全をはじめとした社会的な役割を主体的に果たし、安心で快適な社会の維持発展に貢献する ● 「挑戦」「達成責任」「協働」を基本姿勢として、一人ひとりが能力をいかんなく発揮し、競争優位の原動力となる
<p>基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「技術力」と「顧客関係力」を両輪としたキリングroupの強みづくり 2 KIRIN ブランドへの貢献視点を加えたグループ経営の推進 3 基盤事業の強化と、飛躍的な成長のための3つのシナリオの実現 4 純粋持株会社制の導入による新たなグループ経営体制の構築 5 グループCSRの推進とグループ組織運営改革

キリングroup環境方針

<p>基本方針</p>	<p>「食と健康」を提供するキリングroupは、すべての事業の低炭素化に努め、環境保全の取り組みを実践するとともに、お客様への環境価値提案を通して、自然と共生した豊かな社会の実現に貢献します。</p>
<p>行動指針</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. バリューチェーン全体および、事業活動のあらゆる側面で実行する。 2. アセスメントと監査で活動を保証する。 <p>を基本的な考え方とし、トップのリーダーシップと従業員の全員参加により、環境施策を経営に内在化させ、経営の最高課題の1つとして高い目標を設定して取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■法的要求事項 私たちは環境関連の法則性・協定及び自主管理基準について、高いモラルで遵守します。 ■技術開発 私たちは地球環境とお客様に価値ある自然と共生する技術開発に取り組みます。 ■環境マネジメント 私たちは環境マネジメントシステムを構築し、経営戦略と連動させて継続的に改善します。 ■人材育成 私たちは環境保全活動に貢献できる人材を継続的に育成します。 ■環境パフォーマンス 私たちは、省資源・省エネルギーの推進、温室効果ガスの排出削減、環境汚染の防止、及び3Rを推進します。 ■コミュニケーション 私たちは、地域に密着した環境保全活動を行うとともに、透明性を高め、信頼を頂けるよう適切な環境情報を提供します。

(2009年10月制定)

環境戦略と実績

■環境目標、計画、実績及び評価

2011 年経営計画におけるグループ環境目標と実績

分野	目標	実績	2012 年計画
環境マネジメント体制強化	グループ環境基準の制定	グループ環境基準の制定	キリン協和フーズ本社 ISO14001 取得
	ISO14001 の取得推進	キリンビバレッジで ISO14001 の統合認証取得、メルシャン本社で ISO14001 認証取得	
環境コンプライアンス体制強化	法的要求事項一覧表の整備	監査にて確認	監査にて確認
	環境法令改正情報の周知	発信対象事業会社を全事業会社に拡大	よりフィットした内容に改定
	事業所の第三者監査の実施	キリンビバレッジ舞鶴工場で実施	メルシャン、協和発酵キリンで実施
外部コミュニケーションの強化	透明性ある情報開示	CDP にて国内第一位を獲得 FTSE4Good インデックスを獲得	継続して高い評価を維持
	お客様に環境負荷低減を実感頂ける基準策定	キリンビール、キリンビバレッジ、メルシャン、キリン協和フーズで策定・公開	対象製品を創出
	地球温暖化防止	バリューチェーン CO ₂ 算出	算出済み。トーマツの格付け取得
生物多様性の対応	製造、物流、オフィスの削減	90 年比 48%削減を達成し、目標は達成。	新しい目標を設定
	条例等に対応	遺伝資源アクセス管理ガイドラインを策定し、運用開始。	監査により確認
	紅茶葉について持続可能性調査	大きなリスクがないことを確認	継続して調査
	その他の生物由来原料のリスク調査	簡易リスク判定を実施した。	

主要事業会社の環境チャレンジ宣言と実績

環境チャレンジ宣言は、2010 年中期経営計画の実現に向け、各社が重視する課題を選定し、各課題にどのように取り組むかを社会への約束として宣言したものです。

キリンビール 「エコ・ファーストの約束」

キリンビール株式会社は、穀物・ホップ・果実・水など自然の恵みを原料として、ビール等の酒類を製造・販売する会社としての社会的責任を踏まえ、法令遵守を徹底するとともに、環境負荷の軽減を通じ積極的に社会貢献するため、以下の取組を進めてまいります。

	目標	2011 年の実績
省資源	<p>1.容器包装の 3R（発生抑制・再使用・再利用）を適正かつ積極的に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 容器包装 3R 推進環境大臣賞を受賞したビール用軽量リターナブル大びん（従来比 21%軽量化）、業界最軽量の 204 径アルミ缶（従来比 18%軽量化）、コーナーカットカートン（従来比 2%軽量化）などで培った開発体制を利用して、製造から輸送・使用・リサイクルに至る商品のライフサイクル全体で、更に環境負荷の低い容器の開発に努めます。 ● 2012 年までに 6 缶パック紙を 5%軽量化（2007 年比）することを当面の目標とし、更なる軽量化に努めます。また、アルミ缶を中心とした容器において更なる軽量化の取組を推進します。 ● リターナブルびんシステムの維持・啓発に努め、容器の再使用を推進します。 ● 容器開発において、できるだけ単一素材を目指し、複数素材では分離が簡単で再生利用しやすい形状とします。又、リサイクル関係団体と連携して、容器の再生利用を推進します。 <p>2.再資源化の取組を積極的に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ビールや発泡酒の製造工程で発生する仕込粕の飼料・土壌改良材・キノコ培地への資源化や、廃棄プラスチック箱のプラスチックパレット原料への再利用など、様々な副産物・廃棄物の再資源化率 100%を継続します。 ● 国家プロジェクトの「バイオ燃料地域利用モデル実証事業」への参画を通して、より高度な仕込粕の再資源化に向けて、バイオエタノールなどへの用途開発を進めていきます。 	<p>容器包装の 3R のうち、発生抑制（Reduce=リデュース）においては、約 1g 軽量化した軽量化缶胴を業界に先駆けて採用し、ビール類の 350ml 缶・500ml 缶を全工場を導入しました。再使用（Reuse=リユース）の推進において専用のリターナブルびんを使用し、ビールびん回収率 9 割以上を達成しています。再生利用（Recycle=リサイクル）については、アルミとガラスびんにて推進しています。</p> <p>生産に伴う工場の廃棄物については、1998 年に全工場で再資源化率 100%を達成し継続中です。</p>

地球温暖化防止	<p>3.地球温暖化の防止に向けた取組を積極的に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都市ガスへの燃料転換、排水処理の家庭で発生するメタンガスを燃料に利用する自社発電設備の導入など、工場で発生する CO₂ を削減する取組を継続します。 ●2012 年までに、工場の CO₂ 総排出量を 50%、排出原単位を 45%削減（1990 年比）します。 ●トラック 1 台あたり 10 数%の CO₂ 削減効果のあるトラック総重量 20 トン車から 25 トン車への切り替えや、飲料会社等と共同配送により、トラック延べ台数を減らす取組を進めます。又、輸送ルートを見直し、輸送距離を短縮する取組を行います。 ●2012 年までに、製品輸送の CO₂ 排出原単位を 6%削減（2006 年比）します。 ●LCA 手法*による CO₂ 排出量ほか環境情報の「見える化」に向け、努力します。 ●「めざせ! 1 人、1 日、1kg、CO₂ 削減」運動をグループを挙げて取り組みます。 	<p>都市ガスへの燃料転換は、全工場ですべて完了しております。コージェネレーションシステムは、全国 9 工場中 7 工場へ導入し、残り 2 工場はバイオガスボイラーを設置しております。CO₂ 排出量は 1990 年比 70%減の 18.4 万 t を達成しました。</p>
水資源	<p>4.全国の工場の水源地を守る取組を積極的に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全国の工場を中心に「水源の森づくり」活動を継続するほか、地域の森林保全活動に参加していきます。 	<p>2011 年はキリンビールの「水源の森」「自主環境保全」「地域保全活動」の 3 つの環境活動を「水の恵みを守る活動」のもとで実施しました。従業員だけでなく近隣のグループ会社や一般の方の参加も得るエリアコミュニケーションへの活動を図っており、グループ社員・家族等の参加により、全国 15 ヶ所の「キリン水源の森」で森林保全活動を実施し、2,453 名が参加しました。</p>

※製品等による環境への負荷を原料調達、生産、消費・使用、廃棄という一連のプロセスにおいて定量的、科学的、客観的に把握・評価する手法。

キリンビール株式会社は、上記取組の進捗状況について、定期的に公表するとともに、環境省への報告を行ってまいります。

キリンビバレッジ 「環境チャレンジ宣言」

キリンビバレッジは「人間・社会・自然との調和」を大切にします。当社は、企業理念に「飲料文化の創造」を掲げており、お客様に身近な商品を通じた活動により、お客様や社会とともに、環境に取り組みます。

キリングループが「低炭素企業グループ」を目指すなか、その方針にのっとり、商品を通じた「環境イノベーション」のご提案を行うとともに、全社員による、あらゆるバリューチェーンを通じた CO₂ 排出量の削減を推進します。

目標	2011 年の実績	
省資源	<p>1. 事業における省資源に取り組みます。</p> <p>(1) 容器包装の 3R（発生抑制・再利用・再生利用）を積極的に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2003 年に 63g から 42g へと 21g の軽量化を実現した 2L 大型 PET ボトルの、さらなる軽量化に取り組みます。 ●リターナブルびんのシステムの維持と容器の再使用に努めます。 <p>(2) 再資源化の取り組みを積極的に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●湘南工場、舞鶴工場の製造工程で発生する原料紅茶葉・コーヒー豆粕の再利用など、様々な副産物・排出物の再資源化率 100%を継続します。 ●容器開発においては、容器業界リサイクル団体の自主基準に適合した素材と構成を採用し、容器の再生利用を推進します。 	<p>アルカリイオンの水 2L にコーナーカットカートンを採用しました。TCGF カートンプロジェクトに参加し、500ml 茶系飲料の梱包資材標準化・規格化を推進しております。工場における再資源化を推進し、湘南工場・舞鶴工場で再資源化率 100%を継続しました。</p>
地球温暖化防止	<p>2. 事業の各バリューチェーンにおいて省エネルギーに努め、毎年 1%の CO₂ 排出量削減に取り組みます。</p> <p>LCA 手法等を用い、CO₂ 排出量ほか環境情報のさらなる「見える化」に努めます。</p> <p>(1) 製造分野では天然ガスへの燃料転換、省エネルギー及びエネルギー効率向上につながる設備の導入により、CO₂ 削減する取り組みを継続します。</p> <p>(2) 物流分野ではモーダルシフトの推進と工場直送の取り組みを継続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鉄道輸送を積極的に利用して、トラックからの CO₂ 排出を抑制します。 ●製造工場から取引先へ直接輸送することで、輸送距離を短縮します。 <p>(3) 営業分野では自動販売機の省エネルギー化を継続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●省エネルギー効果の高いヒートポンプ方式の自動販売機を、積極的に投入します。 ●業界団体の自主基準に沿って、自動販売機の蛍光灯の消灯を推進します。 	<p>各バリューチェーンにおける CO₂ 排出量削減に向け、製造分野では、節電対応を実施し、1%削減を達成しました。営業分野では、省エネルギー効果の高いヒートポンプ自販機を新台の 95%以上に投入しました。また東京電力・東北電力管内において、自動販売機の夏季ピーク時の電力削減施策を実施しました。</p>
環境提案商品	<p>3. 商品を通じた様々な「環境イノベーション」を提案していきます。</p>	<p>販売エリアを限定した工場直送の環境に優しい「エコシリーズ」を発売しました。また、商品における環境取り組みのガイドラインを定め、ホームページに掲載しました。</p>
環境マネジメント・社会との対話	<p>4. 製造部門、営業部門、およびこれらを統轄する本社部門において、環境マネジメントシステムの維持・向上に努めます。</p> <p>5. 社員一人ひとりが地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社員によるチャレンジ 25 キャンペーンに、キリンビバレッジグループを挙げて取り組みます。 <p>6. 環境イノベーション提案の情報提供を積極的に行い、お客様や社会との対話を大切にしていきます。</p>	<p>環境マネジメントシステムの維持・向上に努め、環境 ISO14001 を本社、湘南工場、舞鶴工場の統合認証としました。</p> <p>積極的に情報提供を行いお客様や社会との対話を大切にするため環境報告書を発信しました。また、科学技術館にて自動販売機の環境取り組みイベントを実施しました。</p>

協和発酵キリン 「環境チャレンジ宣言」

私たちは、次世代に引き継ぐ地球環境の保護に積極的に取り組むことを宣言します。

目標		2011年の実績
地球温暖化防止	低炭素企業グループを目指します。 ●協和発酵キリングループのCO ₂ 排出量を2020年に2005年比15%削減を目標とします ●再生可能エネルギー導入を推進します ●事務部門のエネルギーを年1%削減します ●2014年までに営業車にハイブリッドカー1000台を導入し、エコドライブを推進します	2011年の温室効果ガス排出量は24万t-CO ₂ で、2005年比で9.7%削減を達成しました。再生可能エネルギーの導入を推進し、太陽光発電設備は富士工場、東京リサーチパークで年間稼働しているほか、2011年は宇部工場に設置しました。 2014年までに営業車にハイブリッドカー1,000台導入を目指し、2011年は585台(累積)を導入しました。
省資源	省資源を推進します。 ●環境への負荷が少ない原材料、事務用品、設備等の調達を積極的に推進します ●ゴミの分別や廃棄物の減量を進め、ゼロエミッションを継続します 環境の保全、保護に積極的に取り組みます。 ●製品の研究開発段階から製造・販売・使用・廃棄までの全ライフサイクルにわたり、環境・安全・健康に配慮した事業活動につとめます ●環境に配慮した製品・サービスをお客様にお届けします	サプライチェーンを対象としたグリーン調達を推進しました。 産業廃棄物のリサイクル活動では、全社ゼロエミッションを達成しています。
地域環境・生態系保全	地域の環境や生態系保全を推進します。 ●水源の森づくり活動など、環境保全活動を進めていきます ●地域の清掃活動をおこなうなど、環境美化につとめます	「協和発酵キリン高崎水源の森づくり」活動で2007年から植林などを継続実施しています。また、「キリン富士山麓水源の森づくり」活動は2009年からキリンディスティラリーと共催し、富士山麓の森林の除伐などを実施しています。その他、多くの水資源を守る活動に参加しました。 事業場の水源である佐波川上流の大原湖周辺、支笏湖東方の国有林、厚東川上流の秋吉台周辺、美東地区水源において、行政や地域住民との協力のもと保全活動を行いました。 堺工場、高崎工場、山口事業所、宇部工場、つくば開発センター、土浦工場、富士工場などの周辺で、地域の方々と協力して、道路の清掃活動や除草、港湾・河川清掃などを実施しました。

メルシャン 「環境チャレンジ宣言」

私たちは社名(Merci+an)が示す通り、お客様への感謝の気持ちを常に大切に、「自然の恵みをくらしに活かす」企業活動を行ないます。また、わたしたちの暮らしを支える自然の恵み、自然の力に感謝し、その環境の保全と豊かな社会の両立を図ります。上記理念の下、下記の取り組みを行うことをここに宣言します。

目標		2011年の実績
地球温暖化防止	●低炭素企業をめざしCO ₂ 排出の削減に努めます。	八代工場での石炭から重油への燃料転換等により、製造部門から排出されるCO ₂ 排出量を昨年比で大きく削減致しました。
省資源	●パッケージの改良を通じて環境負荷を削減します。 ●廃棄物の削減とその有効利用を目指します。	廃棄物の有効利用を進め、中期目標である工場から出る未利用の廃棄物総量の2004年実績以下を維持しました。
環境負荷削減	●バイオ技術・製造技術によって環境負荷を削減します。	ワインのためのペットボトルに新たに720mlレギュラーサイズを導入しました。国内ボトル製品に新たにオーストラリア産ワイン製品を追加しました。

キリン協和フーズ 「環境チャレンジ宣言」

「食と健康」を提供するキリン協和フーズ株式会社は、環境保全の取り組みを実践すると共に、事業を通じた低炭素化に努め、自然と共生した豊かな社会の実現に貢献するため、右記の取り組みを進めることをここに宣言します。

目標		2011年の実績
地球温暖化防止	●「製造・オフィス」におけるCO ₂ 総排出量を3年間の平均で年1%以上削減します。	製造・オフィスにおける2011年のCO ₂ 総排出量は11,543tで対前年比95.7%としました。
省資源	●再資源化の取り組みを積極的に推進します。	再資源化の取り組みを積極的に推進し、廃棄物再資源化率97.1%を達成しました。
環境提案商品	●お客様に環境メリットも提供できる商品を開発します。	お客様に環境メリットを提供できる環境提案商品基準の該当新製品を31件発売しました。

環境配慮と経営の関連状況（環境効率指標）

キリングroupはホールディングス化による事業の多様化に伴い、環境に関する経営指標として、グループ全体のCO₂排出量の絶対量を用いています。

また、各事業会社は、独自の環境効率指標を使用している場合があります。詳細は、「地球温暖化防止」や「水資源の保全」の項における各事業会社の原単位情報を参照してください。

環境戦略と実績

■循環型社会の実現

現状認識

容器包装は品質保護やお客様の利便性を高めるために必要です。しかし、限りある資源を利用していることは事実であり、その環境負荷削減はキリングループにとって重要な課題です。キリングループでは、限りある資源の有効利用に努め、お客様や社会と協力し合いながら、資源循環型社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。

また、キリングループの事業所から発生する廃棄物については、徹底した発生抑制と高い再資源化の維持に努めており、排出量の大きな割合を占める国内の酒類事業と飲料事業の主要工場においては、再資源化率 100%を達成・維持しています。キリングループでは、事業で発生する副産物をより付加価値の高い素材として有効利用するために、多様な用途開発を積極的に進めていきます。

リスクと機会

途上国の発展に伴う限りある天然資源への世界的な需要の高まりにより、資源枯渇が顕在化した場合には、容器包装等の調達・製造コストが上昇する可能性があります。また、特にオーストラリアでは、容器包装リサイクルに関わる規制が強化される可能性があり、コストが増加する可能性があります。

一方で、容器の軽量化や植物性樹脂を原料とする容器の開発、ボトル to ボトルリサイクル等の技術開発が進むと、調達・製造コストが低減できる可能性があります。

事業所から発生する産業廃棄物及び副産物の処理については、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等に従って適切に対応及び再資源化を行なっていますが、管理上の問題等により適正に処理されなかった場合には環境汚染を引き起こすリスクがあります。また、関連法令の改正の方向性によってはリサイクル性や処理コストに影響が及ぶ可能性があります。

一方で副産物の再資源化は、リサイクルを通じた新たなビジネス機会の創出につながる可能性があります。

方針及び目標

キリングループでは、以下のような考えをもとに、グループ各社において事業内容に応じた方針及び目標を設定しています。

容器包装の 3R

リデュース	使う量を減らします
リユース	可能な限り循環利用します
リサイクル	元のように再生します 再生可能な材料を使います

容器包装廃棄物の環境配慮に関する目標

	目標
キリンビール	容器包装の3R（発生抑制・再使用・再利用）を適正かつ積極的に推進します。 ●容器包装3R推進環境大臣賞を受賞したビール用軽量リターナブル大びん（従来比21%軽量化）、業界最軽量のビール用軽量リターナブル小びん（従来比10%軽量化）・204径アルミ缶（従来比18%軽量化）、コーナーカットカートン（従来比2%軽量化）などで培った開発体制を利用して、製造から輸送・使用・リサイクルに至る商品のライフサイクル全体で、更に環境負荷の低い容器の開発に努めます。 ●2015年までに6缶パック紙を10%軽量化（2007年比）することを当面の目標とし、更なる軽量化に努めます。また、アルミ缶を中心とした容器において更なる軽量化の取組を推進します。 ●リターナブルびんシステムの維持・啓発に努め、容器の再使用を推進します。 ●容器開発において、できるだけ単一素材を目指し、複数素材では分離が簡単で再生利用しやすい形状とします。また、リサイクル関係団体と連携して、容器の再生利用を推進します。
キリンビバレッジ	容器包装の 3R の積極的推進 NEW「ペコロジーボトル」の開発により、PET 樹脂を 2009 年比で約 1,400t/年削減します。
メルシャン	酒類の容器包装における環境負荷の低減 容量あたりの包装容器重量を、ガラスビン、ペットボトル共に、2002 年実績以下に抑制します。 再資源化に配慮した包装容器の選択及び開発に努めます。

廃棄物削減に関する目標

キリングループでは、各事業において徹底した廃棄物の発生抑制と高い再資源化率の維持に努めると共に、事業で発生する副産物を有効利用するために、多様な用途開発を積極的に進めています。

廃棄物削減に関する目標

	目標
キリンビール	再資源化の取組を積極的に推進します。 ●ビールや発泡酒の製造工程で発生する仕込粕の飼料・土壌改良材・キノコ培地への資源化や、廃棄プラスチック箱および廃棄プラスチックパレットのプラスチックパレット原料への再利用など、様々な副産物・廃棄物の再資源化率100%を継続します。
キリンビバレッジ	再資源化の取り組みを積極的に推進します。
メルシャン	【廃棄物の削減】 工場から出る未利用の廃棄物総量を、2004年実績以下に抑制します。 オフィスから出る紙ゴミ総量を、2004年実績以下に抑制します。
協和発酵キリングループ	最終埋立処分：ゼロエミッション継続、最終埋立処分量 105 t 以下

※1 再資源化率 = [(有価物量 + 産業廃棄物のうち再資源化したものの量 + 自社内再利用率) / 発生量]

※2 協和発酵キリングループでは、最終埋立処分量を廃棄物発生量の0.1%以下にすることを目標に、ゼロエミッション活動として取り組みます。

取り組み

ペットボトルから再びペットボトルへ (ボトル to ボトル)	これまでの使用済みペットボトルのリサイクルは、繊維製品といった異なる用途への再生が主で、資源として国外に輸出されるものも多くありました。ボトル to ボトルのしくみでは、同じペットボトルへと再生することが可能であり、国内での資源循環が可能です。キリンビバレッジでは、使用済み製品から再生利用されたペット原料を、さらに熱・真空・清浄ガスで洗浄して不純物を除去するメカニカルリサイクルペット原料に加え、日本で初めて ^{※1} 植物由来ペット原料を組み合わせています。導入当初は、メカニカルリサイクルペット原料 10%、植物由来ペット原料最大 27% ^{※2} とし、将来的にメカニカルリサイクルペット原料の比率を高めていく方針です。 ※1 2012年1月5日現在 ※2 植物由来ペット原料は、製造開始時および終了時に含有率が変動するため、最小4.5%から最大27%となる
ペットボトル容器の軽量化 「NEW ペコロジーボトル」	キリンビバレッジは、2L ペットボトルで国産最軽量(2011年3月現在)となる35gを実現し、「キリンアルカリイオンの水」に導入しています。NEW ペコロジーボトルは、「第21回日本清涼飲料研究会」(主催:社団法人 全国清涼飲料工業会)の「日本清涼飲料研究会賞」、「2010 日本パッケージングコンテスト」(主催:社団法人日本包装技術協会)の「適正包装賞」、「アジアスター2010 コンテスト」(主催:アジア包装連盟)の「アジアスター賞」、「ワールドスター2010 コンテスト」(主催:世界包装機構)の「ワールドスター賞」を受賞しました。
ペットボトルのコーティング技術による軽量化	炭酸飲料ペットボトルにおける軽量化と炭酸ガスの保持性能の向上を両立させる技術を開発しました。500ml 入りで重量24gと業界トップクラスの軽さで、CO ₂ 排出量の抑制につなげています。
ガラスびんの軽量化	キリンビールでは、2012年7月発売の「グランドキリン」において、330mlで140gの国内最軽量ワンウェイびんを採用しています。また、ビール瓶の外表面にセラミックコーティングを施すことで、ビール瓶を強化して、従来の大瓶(605g)より21%軽くした軽量大瓶(475g)を導入し2003年に切り替えを完了。1994年から2011年までに、原材料5.5万トン、CO ₂ 排出量5.7万トンを削減しています。小瓶についても軽量化を実施し、従来の小瓶(390g)より10%軽くした軽量小瓶(351g)を実現し、切り替えを完了しました。キリンビバレッジでは、2010年には「きりり」のびん重量を35g、「タンサン」のびん重量を45g軽量化しました。メルシャンでは、720mlびんで従来より15g軽量化した国産最軽量ワイン瓶(2010年8月現在)を採用しています。
缶の軽量化	キリンビールでは、2011年、製缶3社と共同で350mlビール缶を従来の15gから7%削減した14gの業界最軽量の缶を開発、業界に先駆けて採用し、350ml缶、500ml缶を全工場を導入しました。その他、小口径の缶蓋(204径缶)導入による軽量化、環境負荷の低いエコロジー缶(ラミネート缶)などにも取り組んでいます。アルミ缶の軽量化により、1994年から2011年までに、原材料24.9万トン、CO ₂ 排出量206.5万トンを削減しています。キリンビバレッジでも、350mlアルミ缶は1990年比2011年現在で約19%、190gスチール缶は1998年比2011年現在で約6%軽量化しています。
ラベルの薄肉化	キリンビバレッジではラベルの薄肉化を進めており、ペコロジーボトルのラベルにてアルカリイオンの水は2003年、生茶他は2007年に1枚あたり2.5gから1.5gへ、2011年末から順次0.8gへと軽量化しています。また、水性フレキソ印刷ラベルをラベルメーカーと共同開発し、アルカリイオンの水2Lの一部を導入しています。従来の溶剤系インクを使用したグラビア印刷ラベルから変更することで、印刷後に排出される揮発性有機化合物(VOC)やCO ₂ などの温室効果ガスを削減しています。
飲料用紙容器の改良	キリン ハイパーは、紙バックとしてリサイクルできるよう、2004年より、アルミを使わない紙製のカートンに変更しています。
コーナーカットカートン	キリンビールは業界で初めて、ダンボールカートンの四隅を切り落とし、紙の使用量を削減すると共に、持ち運びやすい形状にしました。ダンボールカートンの軽量化により、1994年から2011年までに、原材料4.2万トン、CO ₂ 排出量5.4万トンを削減しています。キリンビールは、2004年から全商品(輸入商品を除く)にこのカートンを導入しています。キリンビバレッジでも「アルカリイオンの水」で採用。これは清涼飲料用では初となります。これは、CO ₂ 排出量年間約400tの削減に相当する軽量化となります。
6缶パックの板紙の軽量化	キリンビールでは、350ml缶6缶パックのバックカートンについて、環境負荷の軽減を図るため、板紙の面積を小さくし、厚みを薄くしました。これによって従来の板紙と比較して7%の軽量化を実現しました。

ハーフトレイ	キリンビバレッジ、小岩井乳業では、ハーフトレイの使用を進めています。下半分をトレイ型のダンボール、上半分をフィルムでコーティングしたものです。紙からフィルムへの転換は省資源（パッケージの軽量化）、CO ₂ 削減の両面で効果があります。
ワイン用ペットボトルの採用	メルシャンでは、キリンビールと共同で「ワインのためのペットボトル」を開発し、2010年8月より発売、2011年には「フレンジア」に導入しました。軽くて割れにくいだけでなく、特許技術により酸素の透過率を下げてワインの品質を保持します。容器製造時と輸送時のCO ₂ 排出量を約50%削減（フレンジアの場合）でき、またキャップなどのプラスチック素材やボトル部分のペット素材も含めすべてリサイクルが可能です。
リン酸回収	協和発酵バイオ山口事業所では、2006年10月から発酵廃液からリン酸を回収しています。リン酸カルシウム主体の回収ケーキのP ₂ O ₅ 含量は、リン鉱石に匹敵する濃度（約29%）があります。2008年からは一部を乾燥させて肥料原料として販売しており、その数量は増加しています。
海上輸送時のストレッチフィルム削減	キリンビバレッジでは、東京ー沖縄間の製品の海上輸送時に、ストレッチフィルムを削減しています。通常、海上輸送の場合には、トラック輸送よりも荷崩れを防ぐための多くのストレッチフィルムを巻く必要がありますが、環境への負荷を考え、東京ー沖縄間の製品の海上輸送でストレッチフィルムを使わない輸送を実現しました。これによりCO ₂ 排出量の削減と廃棄物の削減の両方に貢献しています。
Pパレットのリサイクル	キリンビールでは、以前より自社製品のびんを輸送する際に使用するプラスチック箱（P箱）を原料にしたプラスチックパレット（Pパレット）を利用しています。それに加え、2010年より廃棄対象のPパレットを粉砕して原料化し、新たなPパレットに再生することを開始しました。バージン原料から作るパレットに比べて、1枚あたり約26キログラム、年間約2,700tの二酸化炭素（CO ₂ ）排出量が削減でき、環境負荷を低減することができます。

実績

容器包装廃棄物の環境配慮に関する目標の進捗状況

	進捗状況と実績
キリンビール	容器包装の3Rのうち、発生抑制（Reduce=リデュース）においては、キリンビールでは、2011年、製缶3社と共同で350mlビール缶を従来の15gから7%削減した14gの業界最軽量の缶を開発、業界に先駆けて採用し、350ml缶、500ml缶を全工場を導入しました。再使用（Reuse=リユース）の推進において専用のリターナブルびんを使用し、ビールびん回収率9割以上（ほぼ100%）を達成しています。再生利用（Recycle=リサイクル）については、アルミとガラスびんにて推進しています。生産に伴う工場の廃棄物については、1998年に全工場再資源化率100%を達成し継続中です。
キリンビバレッジ	容器の軽量化に取り組み、2010年は1,406トンのペット樹脂を削減しました。アルカリイオンの水2Lにコーナーカットカートンを採用しました。TCGFカートンプロジェクトに参加し、500ml茶系飲料の梱包資材標準化・規格化を推進しております。工場における再資源化を推進し、湘南工場・舞鶴工場再資源化率100%を継続しました。
メルシャン	ワインのためのペットボトルに新たに720mlレギュラーサイズを導入しました。国内ボトルング製品に新たにオーストラリア産ワイン製品を追加しました。廃棄物の有効利用を進め、中期目標である工場から出る未利用の廃棄物総量の2004年実績以下を維持しました。

容器包装の資源利用量（2011年）（単位：千t カッコ内は%）

国内酒類	国内飲料	海外酒類・飲料	医薬・バイオケミカル	その他	合計
176	56	407	3	1	643
(27.37)	(8.67)	(63.31)	(0.51)	(0.14)	(100)

リターナブルびん販売回収状況（キリンビール）

	販売量 (百万本)	回収量 (百万本)	回収率 (%)
2007年	459.9	461.1	100
2008年	402.1	408.3	>100
2009年	383.5	378.4	99
2010年	365.3	362.8	99
2011年	340.4	337.4	99

※キリンビールでは、ビールびん、業務用生大樽の再利用に取り組んでいます。容器の多様化に伴いリターナブルびんの使用量は減少していますが、その回収率は99%を超えています。また、キリンビバレッジでも、「キリンレモン」等でリターナブルびんを採用し、回収率はほぼ100%となっています。

(参考) 国内におけるその他容器の回収率・リサイクル率等

キリングループは容器リサイクルに関する国内の業界団体と連携して取り組みを推進しています。

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	目標
アルミ缶	消費重量(千t)	301	299	293	296	298	—
	再資源化重量(千t)	279	261	274	274	275	—
	リサイクル率(%)	92.7	87.3	93.4	92.6	92.5	90%以上
スチール缶	消費重量(千t)	834	772	699	868	—	—
	再資源化重量(千t)	710	683	623	770	—	—
	リサイクル率(%)	85.1	88.5	89.1	88.7	—	85%以上
PET ボトル	樹脂販売量(千t)	573	571	564	533	—	—
	回収量(千t)	397	445	437	349	—	—
	回収率(%)	69.2	77.9	77.5	65.6	—	85%以上
ガラスびん	ガラスびん生産量(千t)	1,433	1,386	1,330	1,337	—	—
	カレット使用量(千t)	1,368	1,343	1,297	1,295	—	—
	カレット利用率(%)	95.5	96.9	97.5	96.9	—	97%

(出典) アルミ缶 : アルミ缶リサイクル協会
 スチール缶 : スチール缶リサイクル協会
 PET ボトル : PET ボトルリサイクル推進協議会
 ガラスびん : ガラスびんリサイクル促進協議会

※ 目標は、3R 推進団体連絡会「容器包装 3R のための第二次自主行動計画」2011年3月に基づく、2015年目標。

※ 総融解量とは、ガラスびん生産のために融解されたガラスびん原料(バージン原料+カレット)の総量

廃棄物削減に関する目標の達成状況(ゼロエミッション・廃棄物再資源化100%達成の状況)

キリンビール, キリンビバレッジ, キリンディスティラリーの製造工場では、再資源化100%を達成・継続しており、協和発酵キリンでは、ゼロエミッションを達成・継続しております。

キリンビール	1998年全工場にて廃棄物再資源化100%を達成し、現在も継続中。
キリンビバレッジ	1998年全工場にて廃棄物再資源化100%を達成し、現在も継続中。
キリンディスティラリー	1998年に廃棄物再資源化100%を達成し、現在も継続中。
協和発酵キリン	2004年に全社ゼロエミッションを達成し、現在も継続中。

廃棄物発生量の事業別割合(2011年)

(単位:千t カッコ内は%)

国内酒類	国内飲料	海外酒類・飲料	医薬・バイオケミカル	その他	合計
186	23	209	92	3	514
36.20	4.53	40.72	17.98	0.56	100

廃棄物発生量と再資源化率の推移(国内グループ企業)

	廃棄物発生量(千t)	場内処理量(千t)	廃棄物資源化量(千t)	最終処分量(千t)	再資源化率(%)
2007年	441	100	336	5	98%
2008年	418	85	327	6	98%
2009年	414	100	312	2	99%
2010年	369	103	263	3	99%
2011年	289	64	224	1	99%

キリン本社ビルにおける OA 用紙排出量の削減状況

キリングroupでは、オフィスから出る廃棄物の多くを占めるコピー用紙等の排出量の削減に取り組んでいます。

	廃棄物発生量 (kg)	OA 用紙の排出		
		排出量 (kg)	廃棄物発生量に 占める割合 (%)	削減率 (%)
2008 年	217,561	131,043	60.2%	—
2009 年	193,520	119,954	62.0%	8.5%
2010 年	146,085	72,083	49.3%	39.9%
2011 年	152,217	82,156	54.0%	▲14.0%*

※ 2011 年の廃棄物発生量及び OA 用紙の排出量の増加は、本社ビルへの入居企業及び部署が増加したことが主な要因と考えられます。

廃棄物の適正処理

キリングgroupでは、「キリングgroup廃棄物管理ガイドライン」を定め、契約書の雛形の統一や委託先監査内容を標準化するなど、グループ全体で廃棄物の適正処理に努めています。

有害廃棄物の国際輸送の状況

キリングgroupでは、有害廃棄物の国際輸送等の実績はありません。

環境戦略と実績

■生物多様性の保全

現状認識

人口増加やバイオ燃料の普及を背景とする農地拡大は、時として生産地の豊かな自然やそこで生産に携わる人々のコミュニティに影響を与えるおそれがあります。

豊かで高品質な生物原料の持続可能な調達・利用は、大地の恵みを糧とするキリングroupにとって重要な経営課題です。

この認識のもと、キリングgroupは「キリングgroup生物多様性保全宣言」を策定し、取り組みを進めてきました。これからも、生産地やサプライヤーと協力し持続可能な生物資源の調達に努めるなど、かけがえのない自然の恵みと事業の継続性を確保していきます。

リスクと機会

生産地の自然を保護する各国の規制、及び、途上国の発展に伴う限りある生物資源への世界的な需要の高まりによって、生物原材料の入手が困難になる可能性があります。

また、それに伴い価格が高騰し、調達・製造コストが上昇する可能性があります。

また、適切な調達を推進しない場合、生産地の生態系や生物多様性に悪影響を与える恐れのある農園等からの調達での倫理上の問題、及び環境に配慮しない農園からの長期的安定調達に対する不安等が拡大する可能性があります。

一方で、生産地の自然を保護する、または環境に配慮した農業を支援する法整備や、各種の持続可能な農園認証制度等が拡大することで、適切な生物資源の調達が容易になる可能性があります。

また長期的に見た場合、地球温暖化防止のための取り組みは生物多様性の損失の抑制に貢献できます。

さらに、持続可能な生物資源の調達を推進するとともに、生産地のコミュニティ支援を拡大することで、生産地の持続的な経済発展に寄与しつつ、良質で安定的な生物資源の調達につなげることができます。

方針及び目標

キリングgroup生物多様性保全宣言

キリングgroupは、自然の恵みを原料に、自然の力と知恵を活用して事業活動を行っており、生物多様性の保全は重要な経営課題であると認識しています。将来に渡って「食と健康」の新たなよるこびを提供し続けるために、キリングgroupは、生物多様性保全のための様々な活動を積極的にを行います。

1. 生物多様性に配慮した資源利用を推進します
世界中の人々が自然の恵みを持続的に享受できるように、生物多様性に配慮した資源の利用を事業活動全体において推進します。
2. キリングgroupの持つ技術を活かします
「食と健康」の新たなよるこびを提供する企業として、事業活動を通じて保有する技術の応用により、生物多様性の持続可能な利用および保全に貢献します。
3. ステークホルダーと連携して取り組みます
従来より取り組んでいる環境保全活動に生物多様性の視点を加え、お客様や地域のパートナーと連携し、生物多様性保全に継続して取り組みます。
4. 条約や法令に適切に対応します
生物多様性に係わる条約や法令を遵守し、生物多様性の恵みが世界中で活かせるように努力します。

2010年10月6日 制定

取り組みと実績

<p>持続可能な生物資源の調達</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 持続可能な資源利用調査 キリングループでは2010年より持続可能な資源利用についての調査を進めています。まずは、飲料事業において調達量が多い紅茶葉のサプライヤー調査を実施し、茶葉の生産地の生物多様性を損なうような行為がないことを確認しました。さらに2011年には、その他の生物原材料についても調達量や調達地域からその持続可能性を評価しています。2012年以降はその評価に従ってさらにサプライヤー調査も含めて、生物多様性に配慮した資源利用を進める予定です。 ■ 持続可能な資源の利用 キリンビバレッジでは、「キリンハイパー」の容器に、紙製の容器であるカートカンを採用しています。カートカンには間伐材など国産材を活用する他、カートカンの販売収益の一部を「緑の募金」に寄付するなど森林保全活動の支援につなげています。シャトー・メルシャンでは、1983年以来毎年、世界で初めて森林認証 PEFCC の生産物認証材を使用したフランスの「セガン・モロー社」のワイン樽を輸入し、ワインの樽育成に使用する樽の一部に使用しています。 ■ 地域の農業支援 メルシャンは、かつて大半が遊休農地であったところを元の地形や景観に配慮しながらブドウ農地として造成し、企業による地域農業の振興とワイン用ブドウの自社栽培に取り組んでいます。環境負荷の少ない肥料や農薬を使用し、薬剤散布機をミストタイプに変更して、使用農薬量の低減を図っています。 ライオンでは、地域の農業支援を通じて環境問題の解決に貢献する NPO ランドケア・オーストラリアの活動を助成しており、例えば長年にわたり集約的な生産が続けられてきたハンター・バレーでは、牧草地の土壌改善に向けた酪農家支援が行われています。 ■ 生産地のコミュニティ支援 一年を通じて茶摘みが行なわれているスリランカでは、茶園の従業員は家族とともに茶園内に住み、生活全般がその茶園内で行われています。その子供達も茶園近くに併設された学校に通い、卒業後は、多くが茶園の従業員として働き始めます。しかし都市部と比べ、茶の名産地があるような地方の学校は、必ずしも整った教育環境にはないのが現実です。キリンビバレッジは、生物多様性のホットスポットといわれるヌワラエリアを含め、「午後の紅茶」の主要な紅茶葉の調達先であるスリランカのプロダクション・コミュニティへ図書を寄贈し、農園で暮らす子どもたちの教育環境を整える支援を行っています。この活動は2007年から実施してきましたが、2012年からは新たに5年間で約100校に寄贈先を拡大していく予定です。茶園の未来を支える子供たちの教育支援を通じて、スリランカの豊かな自然が守られることを願っています。
<p>キリングループの技術の活用</p>	<p>キリングループが開発した、植物の組織から植物苗を作成する技術は、伐採された森林を早く復元できる可能性を秘めており、森林資源の持続性への貢献が期待されます。</p> <p>2011年には、食物と競合しない非可食性の素材に多く含まれるキシロースから、バイオマス由来プラスチック[※]の原料となるL-乳酸を高生産する酵母の分子育種に成功しました。今後、生態系を破壊しないバイオマス原料の生産への貢献が期待されています。</p> <p>[※] 植物や微生物など、短時間で再生可能な生物由来の有機性資源（バイオマス）を原料とした環境配慮型のプラスチックのこと。糖類を乳酸菌で発酵させて得られる乳酸を重合させた「ポリ乳酸」の実用化がもっとも進んでいます。</p>
<p>ステークホルダーとの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビオトープ ビオトープキリンビール神戸工場は、1997年に設けたビオトープ（生物が生息する空間）において、在来の水生生物の再現に取り組んでいます。学術研究機関である兵庫県立「人と自然の博物館」と共同で科学的な調査研究を重ね、絶滅が危惧されるカワバタモロコを2002年に200匹以上、近隣のため池から移植しました。モニタリング活動には地域の子供も参加し、良好な環境学習の機会となっています。ビオトープに住むカワバタモロコの採集数は、ここ数年1,000匹弱で安定し、定着に成功しています。今後は、遺伝的多様性を考慮した放流等のガイドラインの策定を進めて、近隣地域においてカワバタモロコの新たな生息地を展開する予定です。 ■ 地域の子どものための自然観察会 キリンビールでは、全国各地の工場のビオトープや、絶滅危惧種「サギソウ」「トクソウ」などを育成・管理しているグリーンハウスを環境教育の場として公開し、地域の子ども会を対象に、ビオトープの魚や水生昆虫、「マヤラン」など植物の観察会を開催しています。 ■ 湿地保全 豊かな生態系を擁するオーストラリア・タスマニアのキングアイランドでは、ライオンの支援により、持続可能な農業を目指すNPOが、酪農業者と協働して牧草地の土壌検査を行っています。肥料の適正使用量を科学的に把握・管理することにより、不必要な使用量の削減を目指しています。これによってラムサール条約湿地のラビニア湿原や河口付近の富栄養化（汚染）を防ぎ、そこに生息する絶滅危惧種のアカハラワカバインコなどの動植物の保護につながる事が期待されます。 また、ニュージーランドにあるライオンのワイナリー Wither Hills では、生態学的に非常に重要な価値を持つランギ湿地の保全プロジェクトを継続しています。ワイナリースタッフと地元のエコロジストを中心に地域行政やニュージーランドの生物多様性基金とも協力し、在来植物の植え付けや国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストで絶滅の危険性が高いと判断された植物種の保護活動を行っています。同プロジェクトはビジネスと環境のすばらしい両立事例として評価され、飲料産業における国際的な環境賞 Drinks Business Green Awards[※] 2012の最終候補にまで残りました。 [※]Drinks Business Green Awards：ロンドンに本部をおくグローバルなアルコール飲料業界紙 The Drink Business が主催する環境経営賞 ■ 野生動植物の保護 キリンビバレッジは、NPOのボルネオ保全トラストジャパンと協働し、野生生物レスキューセンターやボルネオ緑の回廊プロジェクトを支援する自動販売機を設置しています。2009年に北海道・旭山動物園からスタートし、日本全国に広がりつつあります。 ■ 生物多様性民間参画パートナーシップ キリンホールディングスは「日本経団連生物多様性宣言」の「宣言推進パートナーズ」および「生物多様性民間参画パートナーシップ」のメンバーとして、生物多様性に配慮した事業活動の推進に取り組んでいます。
<p>条約や法令への適切な対応</p>	<p>生物多様性の恵みを世界中で生かすためには、国際的な合意に基づく法令に従った適切な遺伝資源の管理も重要です。キリングループは、COP10で採択された名古屋議定書を受けて、遺伝資源のアクセスに関するグループガイドラインを策定し運用しています。</p> <p>キリングループ遺伝資源アクセス管理原則</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物多様性に関する国際的な合意を尊重する。 2. 遺伝資源へのアクセスは資源提供国の事前同意を得て行い、来歴不明の遺伝資源の持ち込み及びその利用は、行わない。 3. 利遺伝資源の利用は、これより生ずる利益の公正かつ衡平な分配を含め、国際条約に従い適切に管理する。

環境戦略と実績

■地球温暖化防止

課題認識（戦略的分析）

気候変動問題は、長期的にみて、生物資源、水資源に大きな影響を及ぼす可能性があり、自然の恵みによって支えられているキリングroupにおける環境への取り組みのベースとして長期的に取り組んでゆくべき重要な経営課題のひとつであると考えています。

また、気候変動問題に関する国内外の政策への対応の必要性が高まっていること、及び省資源・省エネルギーの取り組みが燃料費、原材料費等のコストと直接的に関係することを鑑みれば、気候変動問題はキリングgroupの事業活動と常に密接に関係しているといえます。

キリングgroupでは、原材料調達から消費・リサイクルという一連のバリューチェーンにおいて、サプライヤーや消費段階など間接的な形で環境に影響を与える可能性があるという事業特性を踏まえ、バリューチェーン全体でのCO₂排出量削減を推進することで、地球温暖化防止に貢献することを目指しています。

リスクと機会

キリングgroupでは、国内外の製造・物流・オフィスにおいて、省エネルギー・省資源を推進していますが、今後、国内外の地球温暖化対策に係る規制が当グループの予想を大きく上回り強化された場合には、コストが増加する可能性があります。

また、キリングgroupの商品・サービスが温暖化防止に向けて十分な対策を取らなかった場合には、温室効果ガス排出量の少ない商品を選択する消費者や温暖化防止に向けて積極的に取り組むお取引先等から、キリングgroupの商品・サービスが選択されなくなる可能性があります。

キリングgroupは事業遂行にあたって、天候による影響を受ける可能性があります。例えば、冷夏、干ばつ、台風等の異常気象や、地球温暖化等の影響もリスクとなる可能性があります。オーストラリア等の一部地域では、水不足の深刻化が懸念されており、今後、製造工程で使用する水が不足した場合には事業の遂行に支障が出る可能性があります。また、キリングgroupの使用する原油や一部の原材料等には、その価格が市場の状況により変動するものがあります。それら主要原材料の価格が高騰することによって、調達、製造コストが上昇し、当グループの業績・財務状態に悪影響を及ぼすリスクにおいて、長期的には気候変動が影響する可能性が考えられます。

一方で、バリューチェーン全体でのCO₂排出量削減に取り組むことで、業務の効率化が進み、コストが低減できる機会があります。

方針・目標

キリングgroupは、2009年8月に地球温暖化防止のためのアクションプランを策定し、バリューチェーン全体のCO₂排出量を2050年までに1990年比半減という高い目標を設定し、取り組みを進めています。

アクションプラン

	目標
1	バリューチェーン全体で、2050年までにCO ₂ 排出量を1990年比で半減させます。
2	「製造、物流、オフィス」については、2050年までCO ₂ 排出量を毎年1%以上削減します。
3	国内の「製造、物流、オフィス」については、2015年には、1990年比で35%以上削減します。

※ 2005年の排出係数に基づく

取り組み

蒸気再圧縮システム	ビールの仕込みの麦汁煮沸工程で発生する蒸気を回収して、洗浄・圧縮し、煮沸工程で再利用するシステムです。煮沸工程で使用する蒸気量を大幅に削減できるとともに、工程が密閉系になるため、環境への臭気放散も少なくなります。
燃料転換	キリンビールの工場で使用している燃料の大半は蒸気を作るボイラーに用いられており、従来は重油を原料としていました。現在では重油よりCO ₂ 排出量が少ない天然ガスへの転換を行い、2007年には国内9工場すべてで燃料転換が完了しています。2011年にはキリンビバレッジの舞鶴工場、また2012年には信州ピバレッジで天然ガスへの燃料転換が完了するなど、近くにガス導管がきている工場では順次燃料転換が進んでいます。
排水嫌気処理設備	キリンビールでは、製造工程から発生する排水を処理するために嫌気処理設備を導入しています。この嫌気処理では電気使用量が大幅に削減されるのに加え、副生成物としてメタンを主成分とするバイオガスが回収できます。このバイオガスはビール粕などの有機物に起因する再生可能エネルギーであり、バイオガスボイラーやバイオガスを利用するコージェネレーションシステムなどに活用し、CO ₂ の排出抑制に貢献しています。
コージェネレーション（バイオガス利用）	キリングループでは、電熱供給できるコージェネレーション設備の導入を進めています。キリンビールでは、7工場排水嫌気処理から発生するバイオガスの燃料を利用したコージェネレーションを導入しています。
新エネルギーの利用	キリンビールでは、新エネルギー産業技術総合開発機構及び新エネルギー財団の太陽光発電技術等フィールドテスト事業に協力し、2005年から導入を開始し、今では7工場で太陽光発電を導入しています。更に、キリンビバレッジ、協和発酵キリンにも導入されています。 また、信州ピバレッジでは、中部電力グループのシーエナジーと協働で、施設内に長野県下最大発電出力（2012年2月現在）1,468kWのメガソーラー発電所を設置し、9月10日に運転開始しました。 また、キリンビールでは2007年4月より10年間「Y(ヨコハマ)グリーンパートナー事業」として横浜市風力発電事業に協賛しています。
自動販売機	キリンビバレッジでは、環境面・社会面の両面で貢献できる自動販売機の導入を進めています。 熱を有効に利用できるため電力を大幅に削減できるヒートポンプ技術を2006年から導入開始し、業界トップレベルの導入率を誇っていますが、2012年3月からは、さらに消費電力を従来から最大50%削減できる最新ヒートポンプ自動販売機の導入を開始しています。 また、2007年からはオゾン層を破壊するフロンガスを使用しないノンフロン冷媒自動販売機の導入を開始し、2012年には新しく導入する自動販売機の90%がノンフロン冷媒自動販売機となっています。また、夏（7月～9月）の10時から13時に機内の商品を冷やしこみ、13時から16時まで冷却機能を自動的に停止することで節電に協力するピークカット機能を稼働しているほぼすべての自動販売機に搭載しています。
モーダルシフト	キリングループでは、物流工程におけるモーダルシフト、他社との共同配送の推進、さらにトラック積載効率向上の取り組み等により、CO ₂ 排出量の削減に取り組んでいます。 キリンビバレッジは2006年、キリンビールは2010年に「エコレールマーク」認定企業に選ばれました。「生茶」のケースにはエコレールマークを表示しています。キリンビバレッジでは、2011年のモーダルシフトにより、トラック輸送に比べてCO ₂ 排出量を約82.3%（約2万4千t）削減しました。2011年は、震災の影響で鉄道輸送が困難な状況にあったため、目標は未達となりましたが、今後も積極的にモーダルシフトを進めてまいります。
共同配送	キリンビールおよびキリンビバレッジでは、物流部門での環境負荷の低減を目指し、サントリーグループやサッポロビールと共同配送を実施しています。 また2011年8月、アサヒビールグループとの小口配送の共同化と共同回収を開始しました。両社合計で、CO ₂ 排出量を年間約196t（従来比で約22%）削減できる見込みです。
大容量バッグでの輸入	メルシャンでは、輸入ワインの一部において、ボトルのかわりに大容量の専用バッグで海上輸送し国内でボトリングすることで、安定した品質のワインをご提供できると共に、海上輸送時のCO ₂ 排出量を60%削減しています。
エコシリーズ	キリンビバレッジは、環境にやさしい生活飲料ラインナップ「キリン エコシリーズ」の発売を開始しました。最軽量ボトルの使用に加えてボトルの一部に植物由来の素材を使用しラベルを18ミクロンにした他、流通企業との連携により販売エリアを限定して工場から直接出荷することで、輸送に伴うCO ₂ 排出量を削減しています。
環境に配慮した乗用車の利用	協和発酵キリンでは、2014年までに営業車用としてハイブリッドカー1,000台導入を目指しており、2011年までに585台を導入済みです。キリンビールでは、電気自動車や環境基準認定車、低排出ガス認定車の採用を進めています。
排出権取引の状況	協和発酵キリンでは、2008年12月より、化学業界の一員として排出権取引試行協議会に参加、2012年目標の必達を期しています。
情報開示（カーボンディスクロージャー）	キリングループの気候変動戦略と温室効果ガス排出量に関する情報開示の取り組みと評価については、p.45「投資家等への情報開示」をご覧ください。

バリューチェーン全体でのCO₂排出量の算定

キリングroupでは、温室効果ガス排出量の算定方法に関する国際的ガイドライン「GHG プロトコル・イニシアチブ^{※1}」のスコープ3・スタンダード^{※2}に準拠して、グループ独自の「バリューチェーン CO₂ 算出基準」を策定し、バリューチェーン全体のCO₂排出量を算出・推計しています。2010年には、策定した算出基準の信頼性・透明性の確保を目的とし、株式会社トーマツ審査評価機構の第三者格付けである『スコープ3』格付けを取得しました。キリングgroupは同社の『スコープ3』格付け取得第一号となります。

※1 1998年にWorld Resources Institute:WRIとWorld Business Council for Sustainable Development:WBCSDによって共同設立された、温室効果ガス(GHG)排出量算定と報告に関する基準を開発・利用促進する国際的取組み。

※2 GHG プロトコル・イニシアチブにより2011年10月に発行されたGHG排出量算定・報告基準「スコープ3スタンダード(Corporate Value Chain (Scope 3) Accounting and Reporting Standard)」。排出源から発生しGHGの直接排出となる範囲を「スコープ1」、電気・蒸気・熱等の使用に伴うGHGの間接排出である範囲を「スコープ2」とし、それを除くその他のGHGの間接排出を「スコープ3」と定義する。

算出結果

		内訳	バリューチェーンCO ₂ 排出量に占める割合	排出量
基準に沿った算定対象	原料・資材	原料・資材製造、原料・資材輸送	41%	約640万t
	製造	自社拠点活動(製造・研究・オフィス)	16%	
	物流	製品輸送(出荷)	3%	
	営業・マーケティング	営業活動	16%	
	廃棄・リサイクル	使用済み容器等の廃棄物輸送・廃棄処理 製造由来廃棄物の輸送、廃棄処理	1%	
	委託	委託製品(グループ外委託)の原料・資材、製造、物流	17%	
推計値		——	6%	約40万t
合計		——	100%	約680万t

スコープ3の各カテゴリと「キリングgroupバリューチェーンCO₂算出基準」との相違点

上流/下流		スコープ3のカテゴリ	現在のデータ収集状況	備考
上流スコープ3排出(購入)	1	購入製品・サービス	○	購入量×各排出係数で算定
	2	資本財	×	算定していない
	3	「スコープ1、2」に含まれない燃料・エネルギー関連活動	△	算定していないが、係数を決めればすぐに算定可能
	4	輸送・流通(上流)	○	省エネ法で算定シナリオで算定
上流スコープ3排出(購入)	5	事業活動で発生する廃棄物	○	処理シナリオを設定し算定
	6	出張	×	算定していない
	7	従業員の通勤	×	算定していない
	8	リース資産(上流)	×	算定していない
	9	投資	×	算定していない
下流スコープ3排出(購入)	10	輸送・流通(下流)	○	
	11	販売製品の加工	×	算定していない
	12	販売製品の使用	×	算定していない
	13	販売製品の廃棄処理	○	容リ法該当製品のみ算定
	14	リース資産(下流)	—	該当せず
	15	フランチャイズ	—	該当せず

※今回の算出では、削減取組みが可能な活動を優先的に算出対象としたため、上記スコープ3カテゴリ一覧のうち2、6、7、8、9、11、12の各カテゴリについては算出対象から除外していますが、全体への影響は小さいと判断しています。また、14、15カテゴリについては該当いたしません。

トーマツ審査評価機構「スコープ3」格付け結果

適用項目	スコープ3/報告書の発行/回答	スコープ3の取組範囲	スコープ3の温室効果ガス削減への取組	取組内容の信頼性・透明性	ISO14001 認証取得	スコープ3/質問票による格付(スコアカード)
格付	AAA	AA	AAA	AA	AA	AAA

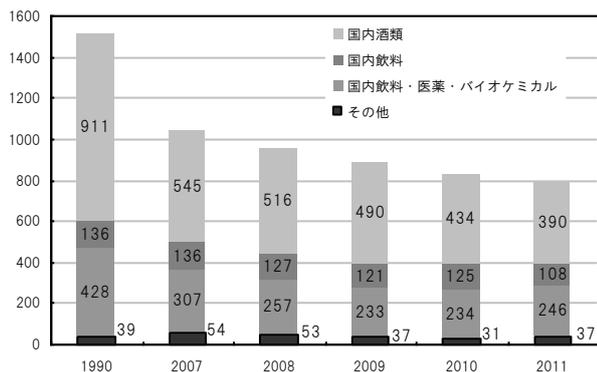
※「スコープ3」第三者格付けについては、下記を参照ください。http://www.tohatsu.com/jp/teco/scope3_rating/

実績

アクションプランの達成状況

目標	実績
バリューチェーン全体で、2050年までにCO ₂ 排出量を1990年比で半減	バリューチェーン全体のCO ₂ 排出量の推定の結果、2009年には1990年比21%削減
「製造、物流、オフィス」については、2050年までCO ₂ 排出量を毎年1%以上削減します。	2011年は前年比約1%の削減
国内の「製造、物流、オフィス」については、2015年には、1990年比で35%以上削減します。	2011年は、国内の「製造、物流、オフィス」において、1990年比48%、73.3万t削減

「製造、物流、オフィス」CO₂排出量実績（国内）



グループ全体での年間エネルギー使用量の推移

年	総使用量	エネルギー種別使用量			
		石炭(t)	都市ガス(Nkm ³)	ガソリン(kl)	LNG(t)
2009年	28,325TJ	37,341	133,446	3,246	54,251
		灯油(kl)	3,179	購入電力(MWh)	963,502
		軽油(kl)	11,035	再生可能電力(MWh)	175
		重油(kl)	32,203	購入蒸気(GJ)	2,375,240
		LPG(t)	36,774	その他(GJ)	3,388,292
		2010年	28,156 TJ	37,520	118,625
2011年	19,753 TJ	1,317	971,274	1,694	207
		重油(kl)	31,969	購入蒸気(GJ)	2,404,573
		LPG(t)	3,569	その他(GJ)	3,725,195
		石炭(t)	23,394	都市ガス(Nkm ³)	98,753
		ガソリン(kl)	10,695	LNG(t)	14,888
		灯油(kl)	137	購入電力(MWh)	870,893
2011年	19,753 TJ	軽油(kl)	3,746	再生可能電力(MWh)	229
		重油(kl)	19,725	購入蒸気(GJ)	1,856,330
		LPG(t)	2,016	その他(GJ)	2,794,735

CO₂ 排出量削減のための導入技術、導入設備

ガスボイラー、太陽光発電、バイオガスエンジン式コージェネレーションシステム

		ガスボイラー	太陽光発電	バイオガスエンジン式コージェネレーションシステム
キリンビール	横浜工場	○ 1980年	○ 2006年 (20 kW)	○ 2004年
	名古屋工場	○ 1988年	○ 2008年 (20 kW)	○ 2009年
	神戸工場	○ 1996年	○ 2005年 (20 kW)	○ 2002年
	北海道千歳工場	○ 2003年	—	—
	仙台工場	○ 2006年	—	○ 2005年
	取手工場	○ 2006年	○ 2007年 (20 kW)	○ 2006年
	岡山工場	○ 2006年	○ 2007年 (20 kW)	○ 2007年
	福岡工場	○ 2006年	○ 2006年 (20 kW)	○ 2006年
	滋賀工場	○ 2007年	○ 2006年 (10 kW)	—
キリンビバレッジ	湘南工場	○ 2008年	○ 2006年 (60 kW)	
	舞鶴工場	○ 2011年	—	
キリンディスティラリー	富士御殿場蒸留所	○ 2008年	—	
協和発酵キリン	東京リサーチパーク	○ 2000年	○ 2010年 (20 kW)	
	堺工場	○ 2001年	—	
	高崎工場	○ 2001年	—	
	富士工場	○ 2005年	○ 2008年 (20 kW)	
	宇部工場	—	○ 2011年	
協和発酵ケミカル	四日市工場	○ 2007年	—	
協和発酵バイオ	山口事業所防府	○ 2007年	—	
メルシャン	藤沢工場	○ 1995年	—	
	磐田工場	○ 2006年	—	
小岩井乳業	東京工場	○ 2007年	—	
	小岩井工場	○ 2008年	○ 1996年 (10 kW)	
信州ビバレッジ (旧ナガノトマト)	本社工場	○ 2006年	—	
	松本工場	○ 2007年	—	

※再生可能エネルギーについては、上記のほか、2007年にキリンビール横浜市風力発電事業（定格出力1,980kW）を実施。

※キリンビールでは、排水処理に嫌気処理設備を導入していますが、この際に副生成物としてメタンを主成分とするバイオガスが回収できます。このバイオガスは再生可能エネルギーで、コージェネレーションの燃料とすることでCO₂の排出抑制に貢献しています。

コージェネレーションシステムによる発電量、バイオガス発生量

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
コージェネレーションシステムによる発電量 (単位：百万 kWh)	94	112	113	113	109
バイオガス発生量 (単位：千 m ³)	12,740	12,253	11,792	11,676	11,404

飲料自動販売機出荷 1 台あたりの年間消費電力量

(kW-h)

2007年	2008年	2009年	2010年	2012年(目標)
1,559	1,349	1,167	1,028	1,046 (△36.3%)

出典：日本自動販売機工業会

※キリンビバレッジでは、2012年3月より、消費電力を従来比最大50%強削減した最新のヒートポンプ自動販売機を導入開始したほか、省エネ効果の高いLED照明を、一部の薄型機などを除く缶・PET自動販売機の新規投入機すべてに搭載しています。さらに、オゾン層破壊防止などに向けノンフロン冷媒機も積極的に導入しています。

温室効果ガス（GHG）排出量の内訳

スコープ1（直接的 GHG 排出）

燃料の使用に伴う CO₂ 排出量（国別） （単位：千 t CO₂）

	日本	オーストラリア	中国	その他	合計
2007年	863	—	—	—	863
2008年	791	198	8	—	997
2009年	786	217	7	—	1,010
2010年	757	140	6	—	903
2011年	346	82	6	33	467

燃料の使用に伴う CO₂ 排出量（事業別） （単位：千 t CO₂）

	国内酒類	国内飲料	医薬・バイオケミカル	その他	海外酒類・飲料	合計
2007年	302	71	14	476	—	863
2008年	292	73	20	406	206	997
2009年	307	59	19	401	224	1,010
2010年	264	42	42	409	146	903
2011年	246	42	80	12	87	467

スコープ2（エネルギーの利用に伴う間接的 GHG 排出）

電力及び蒸気の購入に伴う CO₂ 排出量（国別） （単位：千 t CO₂）

	日本	オーストラリア	中国	その他	合計
2007年	446	—	—	—	446
2008年	449	160	7	—	616
2009年	408	314	7	—	729
2010年	454	315	5	—	774
2011年	350	275	18	33	676

電力及び蒸気の購入に伴う CO₂ 排出量（事業別） （単位：千 t CO₂）

事業	国内酒類	国内飲料	医薬・バイオケミカル	その他	海外酒類・飲料	合計
2007年	177	53	28	188	—	446
2008年	154	45	27	223	167	616
2009年	133	33	29	213	321	729
2010年	128	18	207	108	313	774
2011年	95	18	244	39	280	676

スコープ3（その他の間接的 GHG 排出）

輸送量・輸送距離および輸送にともなう CO₂ 排出量（スコープ3 カテゴリー9）

	事業	国内酒類	国内飲料	医薬・バイオケミカル	その他	合計
2009年	輸送量（千 t キロ）	724,943	665,961	48,678	43,266	1,482,848
	CO ₂ 排出量（千 t-CO ₂ ）	76	46	3	8	133
2010年	輸送量（千 t キロ）	680,038	663,855	35,722	40,410	1,420,025
	CO ₂ 排出量（千 t-CO ₂ ）	67	46	2	7	122
2011年	輸送量（千 t キロ）	723,522	672,456	35,667	40,269	1,471,914
	CO ₂ 排出量（千 t-CO ₂ ）	66	48	2	8	124

※集計期間は、各年共に4月～翌年3月。また、海外分を除きます。

CO₂ 排出原単位の推移

(a) キリンビール

	CO ₂ 排出量 (万 t)	ビール 1l あたりの エネルギー原単位 (kg/kl)
2007 年	31.1	114
2008 年	27.4	103
2009 年	26.2	101
2010 年	23.3	94
2011 年	18.4	79

(b) キリンビバレッジ

	湘南工場		舞鶴工場	
	CO ₂ 排出量 (百 t)	原単位 (kg-CO ₂ /KL)	CO ₂ 排出量 (百 t)	原単位 (kg-CO ₂ /KL)
2007 年	267.4	81	93.0	105
2008 年	295.9	89	79.0	87
2009 年	290.0	85	91.0	101
2010 年	270.9	82	77.0	90
2011 年	241.8	81	62.2	77

(c) 協和発酵キリングroup

	CO ₂ 排出量 (千 t)	CO ₂ 排出原単位 (生産金額当たり) (t-CO ₂ /億円)
2007 年	785.6	300
2008 年	706.8	273
2009 年	668.0	246
2010 年	642.6	213
2011 年	706.2	261

(d) メルシャン

	CO ₂ 排出量 (千 t) (工場からの排出量)	CO ₂ 排出原単位 (換算生産量を基に算出) (2002 年を 100 とした指数)
2007 年	111	98.2
2008 年	116	99.8
2009 年	109	97.3
2010 年	101	89.9
2011 年	74	93.7

(e) グループ全体

	CO ₂ 総排出量	CO ₂ 排出原単位の 推移 (売上あたり)
2009 年	1,686 千 t	0.89t/百万円
2010 年	1,677 千 t	0.77t/百万円
2011 年	1,097 千 t	0.53t/百万円

環境戦略と実績

■水資源の保全

現状認識

水は飲料等製造の基本的な原料であると共に、製造工程では洗浄や冷却水等としても使用しており、また主要な原材料である農産物の生産にも欠かせないことから、水資源問題はキリングループにとって重要な課題です。

気候変動や生態系破壊の問題とも関連して水質の悪化や水量の不足、異常気象による干ばつ、台風、洪水等の自然災害の激化、清浄な飲料水の不足等が懸念されており、直接的な事業リスクであるとともに、長期的に見れば社会経済への影響も大きく、事業基盤への脅威でもあります。

キリングループは、水資源問題の影響が各国・地域により異なることを理解し、グローバルに事業を展開する企業グループとして、夫々の地域固有の水資源問題に応じた適切な対応をおこなっていきます。

リスクと機会

豪州においては継続的な渇水に伴い、水使用量等を制限する規制が更に厳しくなるリスクがあります。日本では、水質汚濁防止法の改正など、地下水の汚染を防止するための規制が厳しくなっています。

日本では東日本大震災に伴う津波、また豪州ブリスベンでは洪水による工場の操業停止を経験し、大規模自然災害による事業活動へのリスクを認識しました。

現時点で日本での水資源のリスクは大きくないと判断していますが、豪州では長引く干ばつによる水不足が続くことが予想されます。

これに伴い、水道料金の高騰によるコスト上昇や、断水による製造停止のリスクが考えられます。

また、原材料の生産地における水不足・洪水等により、調達への影響が考えられます。

世界的に見れば上水道等が整備されていない地域も多いため、高品質の飲料にはビジネス機会があります。

高度な節水技術、高い排水処理技術、また水の恵みを守る活動は、事業所のある流域での水資源保護に貢献するとともに、主要な原料である上質な水の安定確保につながります。

方針及び目標

キリングループの水資源管理

水使用の合理化	使う水量を減らします
適正な排水処理	使った水はきれいに返します
水の恵みを守る活動	水自体を守る活動をします

水資源保全目標

キリンビール	工場の原単位あたり水使用量を削減します。 2011年目標 5.6m ³ /kl (対前年比 -9.7%)
キリンパレヅジ	節水や水のリサイクルを推進することで、用水使用量の削減に努めています。
メルシャン	工場の原単位あたりの製造用水使用量を、2012年に、2002年比20%削減します。 (製品に取り込まれる水を除く)
ライオン	水総使用量を2014年までに2009年比10%削減します。

取り組み

<p>水使用の合理化</p>	<p>キリングループでは、節水と水の再利用を徹底し、各工場での水の使用量削減を推進すると共に、日本と海外の事業会社間で技術交流を行うなど、取り組み成果や優れた技術をグローバルに共有しながらグループ内に展開しています。</p> <p>■ キリンビール キリンビールは、水の使用量を抑える工場設計（ユーティリティ設備の分散配置等）や、洗浄工程の見直しと使用済回収水の再生利用（カスケード利用）の拡大といった節水プロジェクトを長年にわたり継続しています。特に、神戸工場は、水使用の多くを占めるタンク洗浄水を局所的に再利用するなどの徹底した取り組みを推進しており、用水原単位は国内ビールメーカーの工場のなかでトップレベルとなっています。</p> <p>■ キリンビバレッジ 蒸気ドレンの回収再利用率向上や製造設備の洗浄工程の見直し、CIP(Cleaning In Place 定置洗浄：設備を分解しないで洗浄する方法)の改善を実施しています。</p> <p>■ メルシャン 製造用水の使用量の削減を進めています。藤沢工場では2005年から「水削減プロジェクト」活動を継続しています。今後もさらに再生利用の取り組みや節水に努めます。</p> <p>■ 協和発酵キリン 協和発酵キリングループは、地下水の汲み上げ量の削減や、アルコール蒸留塔の冷却水リサイクルなどの温度・用途に応じた水の循環システムを導入して水使用量を削減し、淡水の資源効率（生産量あたり淡水使用量等）を把握して工場全体で冷却水の合理化を図っています。</p> <p>■ ライオン ライオンではビール製造を行っている Castlemaine Perkins 工場が逆浸透膜技術を用いた排水処理施設を導入し、処理された水を冷却タワー、ボイラー、洗浄などに使用しています。残念ながら2011年の洪水のため、同工場の高度な水循環利用技術は本来の性能を発揮できませんでしたが、オークランドの Pride ビール工場等における節水が進み、全体では昨年度よりも使用量を削減することができました。</p>
<p>適切な排水処理</p>	<p>キリングループは各国の水質汚濁防止関連法の遵守に努め、一部の事業所では環境法令が求める以上の自主基準を設定し、排水負荷の最小化に取り組んでいます。</p> <p>■ キリンビール キリンビールの工場では、原料に由来した高濃度の排水と洗浄水などの低濃度の排水が発生しますが、これらの排水は調整槽に送られたあと、嫌気処理と活性汚泥法を併用して、安定的に浄化しています。工場の排水処理から発生するバイオガスをコージェネレーションシステムで利用し発電しており、地球温暖化対策にも役立っています。</p> <p>■ 協和発酵キリン 協和発酵キリンでは、排水処理プロセスにおいて高純度のリン酸を回収しています。回収したリン酸は農業資材などに活用されています。リン酸資源は世界的に不足しており、今後もこの技術を活用して原料としての用途拡大を図ります。</p>
<p>水の恵みを守る活動</p>	<p>キリングループでは、「水の恵みを守る活動」として、「水源の森の活動」「自主環境保全」「地域協働環境保全」の3つの活動を展開しています。</p> <p>■ 「水源の森の活動」 1999年に業界に先駆けてキリンビールが始めた森林保全の活動である「水の恵みを守る活動」は、現在ではグループ全体に広がりました。 キリンビールでは15箇所、約1,000haで活動し、参加者は累計で約2万人に近い大きな活動となっており、近隣のグループ各社も活動に参加しています。 2011年は、キリンビバレッジが、神奈川県が実施する森林再生の取り組み活動に賛同し、同県と「森林再生パートナーシップ」契約を締結し、新たに「キリンビバレッジかながわの森」が誕生しています。 協和発酵キリンでは、NPO法人「フォレストぐんま21」などの指導を受けながら、「協和発酵キリン高崎水源の森づくり」活動を実施しています。この活動は海外にも広がっており、麒麟啤酒（珠海）有限公司は、珠海淇澳マングローブ自然保護区で植樹活動を行っています。 また、2008年には業界に先駆けてキリンホールディングスが実施した調査により、キリンディスティラリー富士御殿場蒸留所が採取する地下水が、標高2000m以上の富士山東側斜面で浸透した降水が約50年の年月をかけて新富士火山の堆積層で磨かれてきた伏流水であることが分かりました。地下水の起源を推定するには、地下水の安定同位体比分析や、トリチウム濃度測定、地下水流動シミュレーションなどにより総合的に解析する必要がありますが、この調査では、従来の手法に加え、御殿場市周辺の衛星画像を使い、降水の地下浸透可能性を算出することにより、地下を流れる経路を含む高い精度の地下水流動シミュレーションに成功したものです。これを受け、「キリン富士山麓水源の森づくり」活動として、グループ各社も参加して富士山麓水源涵養林の林道沿い広葉樹の苗木を植樹し、さらに内枝や間伐などの手入れ作業を行なっています。こうして守られた水で、キリングループの商品が作られています。</p> <p>■ 「自主環境保全」「地域協働環境保全」 キリングループでは「水の恵みを守る活動」として、「水源の森」以外にも事業所周辺の環境美化に自主的に取り組む「自主環境保全」、地域団体と協働して行う「地域協働環境保全」の活動を展開しており、従業員やその家族などが地域社会の皆さまと共に事業所周辺や近くの海岸などを清掃する活動へ参加しました。</p>
<p>情報開示</p>	<p>キリングループの水資源に関する情報開示の取り組みと評価についての詳細は、p.45「投資家等への情報開示」をご覧ください。</p>

実績

水資源保全目標の進捗状況（2011年）

	進捗状況と実績
キリンビール	2011年の目標は、5.6m ³ /kl（対前年比 -9.7%）でした。 実績は、5.5m ³ /kl（対前年比-11.3%）であり、目標を達成しました。
キリンビバレッジ	湘南工場では、用水使用量（1,003→878千m ³ ）および用水原単位（3.0→2.9m ³ /kl）ともに昨年より削減することができました。舞鶴工場では、用水使用量（345→318千m ³ ）を昨年より削減しました。なお、用水原単位（4.0→4.0m ³ /kl）は横ばいです。
メルシャン	2011年の医薬・化学品事業譲渡に伴い、製造用水の削減についての目標は、2010年をもって終了しました。 従来は医薬・化学品事業での水利用が全体の半数以上を占めており、医薬・化学品工場を中心に製造用水の削減に努めてまいりました。2010年には目標の2002年比20%削減を達成しています。
ライオン	ビール・スピリッツ・ワイン部門においては製品1リットル当たりの水使用量を1.7%削減しました。 乳製品・飲料部門において2011年に使用された水の総使用量は対前年比で1.6%削減しました。

グローバル地域別淡水使用量（千m³）

年	日本	オセアニア	中国	その他	合計
2008年	93,733	6,451	930	—	101,114
2009年	88,811	9,217	531	—	98,559
2010年	79,969	8,946	411	—	89,326
2011年	69,950	7,416	711	7,356	85,433

グループ全体での取水源別年間水使用量の推移

年	淡水						海水	合計
	上水	河川	地下水	雨水	中水（再生水）	淡水計		
2008年	94,281千m ³	1,781千m ³	5,052千m ³	—	—	101,114千m ³	18,000千m ³	119,114千m ³
	93.2%	1.8%	5.0%	—	—	84.9%	15.1%	100.0%
2009年	90,510千m ³	1,694千m ³	6,043千m ³	218千m ³	94千m ³	98,559千m ³	15,000千m ³	113,559千m ³
	91.8%	1.7%	6.1%	0.2%	0.1%	86.8%	13.2%	100.0%
2010年	65,552千m ³	2,125千m ³	21,623千m ³	3千m ³	23千m ³	89,326千m ³	15,000千m ³	104,326千m ³
	73.4%	2.4%	24.2%	0.0%	0.0%	85.6%	14.4%	100.0%
2011年	55,513千m ³	338千m ³	29,560千m ³	2千m ³	20千m ³	85,433千m ³	16,000千m ³	101,433千m ³
	54.7%	0.3%	29.1%	0.0%	0.0%	84.2%	15.8%	100.0%

各事業会社の水使用原単位の推移

	キリンビール (m ³ /kl)	キリンビバレッジ		メルシャン (2002年を100とした指数) [※]	協和発酵キリングループ	
		湘南工場 (m ³ /kl)	舞鶴工場 (m ³ /kl)		(千kl/t製品)	(千kl/億円)
2008年	7.0	3.2	4.0	96.5	0.685	25
2009年	6.7	3.2	4.1	93.8	0.626	23
2010年	6.2	3.0	4.0	76.5	0.716	23
2011年	5.5	2.9	4.0	—	0.743	23

※メルシャンの実績について、2011年報告分より、製造用水の使用量の算出方法を改正省エネ法の算出方法に合わせたため、遡って2008年分から修正しています。
※協和発酵キリングループの実績について、2011年報告分より、協和発酵ケミカルを売却したため、遡って2008年分から修正しています。

工場・事業所内における水の循環的利用量

年	循環型利用		
	リサイクル水利用	リユース水利用	合計
2008年	0千m ³	2,439千m ³	2,439千m ³
	0.0%	100.0%	100.0%
2009年	88千m ³	2,007千m ³	2,095千m ³
	4.2%	95.8%	100.0%

2010年	682千m ³	1,713千m ³	2,395千m ³
	4.2%	95.8%	100.0%
2011年	6,231千m ³	621千m ³	6,852千m ³
	90.9%	9.1%	100.0%

グループ全体での放出先別年間排水量の推移

年	排水量				合計
	下水	河川等への直接排水	海への直接排水	その他※	
2008年	409千m ³	76,392千m ³	2,612千m ³	—	79,413千m ³
	0.5%	96.2%	3.3%	—	100.0%
2009年	408千m ³	78,566千m ³	2,556千m ³	—	81,530千m ³
	0.5%	96.4%	3.1%	—	100.0%
2010年	6,668千m ³	68,509千m ³	3,802千m ³	753千m ³	79,732千m ³
	8.4%	85.9%	4.8%	0.9%	100.0%
2011年	7,556千m ³	31,972千m ³	42,138千m ³	558千m ³	82,224千m ³
	9.2%	38.9%	51.2%	0.7%	100.0%

※ 植林地への散水

2011年「水の恵みを守る活動」実績（キリンビール）

		水源の森の活動	自社環境保全活動	地域協働環境保全活動
活動概要		国有林、県市町村林で行う森林保全活動	自主開催の環境美化活動	地域団体主催の環境美化活動に参画
事例		工場水源の森活動 たっすいがは、いかん！ 等	工場周辺・ビル近隣清掃活動 ゴミゼロ活動、空き缶拾い 等	蒲生干潟清掃 鶴見河クリーンアップ 大竹海岸清掃活動 等
実施件数	計 117 件	16 件	77 件	24 件
参加人数	計 8,428 人	2,227 人	4,718 人	1,483 人

「水の恵みを守る活動」過去5年間の参加人数の推移（キリンビール）

	参加人数（合計）
2007年	3,246人
2008年	2,766人
2009年	9,193人
2010年	7,890人
2011年	8,428人

※参加人数（合計）の数値には、キリンビールの社員だけでなく、キリンビールが主催する活動に参加されたグループ会社や地域の方々も含まれています。

キリン水源の森

活動場所		活動開始年	面積 (ha)	主な樹種
森の所在地	名称			
北海道千歳市	キリン千歳水源の森	2007年	13.26	アカエゾマツ
宮城県柴田郡	キリン北蔵王水源の森	2007年	8.87	スギ、ヒバ、ヒノキ、ブナ
茨城県桜川市	筑波山麗水源の森	2004年	1.0	ヤマザクラ、クヌギ、コナラ
栃木県宇都宮市	キリンとちぎ恵みの森	2009年	2.05	スギ、ヒノキ、トチノキ
群馬県高崎市	キリン高崎水源の森	2007年	1.55	スギ、コナラ
神奈川県足柄上郡・秦野市	かながわ水源の森	2009年	1.8	スギ、ヒノキ
石川県白山市	キリン白山水源の森	2007年	12.6	スギ、ブナ、ミズナラ、コナラ
石川県能美市	キリン能美里山の森	2008年	13.2	スギ、ヒノキ、コナラ、クヌギ
岐阜県瑞浪市	キリンビール水源の森	2005年	1.5	ヤマザクラ、コナラ、ヤマグリ、モミジ
岐阜県八百津町	キリン木曾川水源の森	2007年	7.0	ヒノキ、サクラ、モミジ
静岡県駿東郡	キリン富士山麓水源の森	2006年	43.03	カラマツ、ウラジロモミ
滋賀県犬上郡	琵琶湖水源の森	2004年	820	モミジ、コナラ、ツバキ、カシ
兵庫県三田市	キリン観福の森	2000年	18.5	コナラ、アカマツ、スギ、ヒノキ
鳥取県東伯郡	三朝・キリン恵みの森	2008年	47.62	コナラ、クリ
岡山県久米郡	キリン岡山水源の森	2007年	5.69	サクラ、コナラ、クヌギ
高知県高岡郡	たつすいがは、いかん！の森	2009年	216	ヒノキ、スギ
福岡県朝倉郡	キリン福岡水源の森	2006年	12.01	スギ、ヒノキ
広島県広島市	ふるさとキリンの森	2010年	19.88	スギ、ヒノキ、コナラ、アベマキ
神奈川県愛甲郡	キリンピバレッジかながわの森	2011年	11	スギ、ヒノキ、ブナ、モミ、ケヤキ

環境戦略と実績

■汚染の防止

大気汚染の防止

大気汚染物質の排出量推移

(a) グループ全体での NO_x、SO_x の排出量の推移

	NO _x (t)	SO _x (t)
2007年	269	83
2008年	281	112
2009年	590	103
2010年	545	66
2011年	404	41

※2009年より、協和発酵キリングループ及び海外を算定対象に追加。

(b) VOC の排出量の推移

キリングループの中で、VOC を排出する主な事業会社は、事業特性上、協和発酵キリングループです。協和発酵キリングループでは VOC に関する目標を設定し、取り組みを推進しています。

VOC 排出量の削減目標

協和発酵キリングループ	2012年度化学物質排出量（VOC）を2003年度比50%削減
-------------	---------------------------------

協和発酵キリングループにおける VOC 排出量の推移

（単位：t）

	メタノール	アセトン	PRTR 法 対象物質	酢酸エチル 他	合計
2007年	259	74	27	22	382
2008年	296	182	42	27	547
2009年	197	95	45	37	374
2010年	320	64	47	4	435
2011年	273	68	46	8	395

環境に配慮した輸送に関する状況（大気汚染防止関連）

自動車 NO_x・PM 法及び八都府県環境条例をはじめとする、自動車の排ガスに関する各種法令の遵守を徹底しています。キリンビールでは、大都市圏において NO_x・PM 法の対策車両の導入を進めるほか、大型車への切り替えによりトラック1台あたりの積載量を増やし、トラック延べ台数の削減を進める取り組みを実施しています。

鉄道を使うモーダルシフトとして、トラック輸送を製造工場から発駅までと、着駅から物流拠点までに限定し、中間に鉄道コンテナを利用することにより、輸送に伴う大気汚染を防止しています。

化学物質管理

キリングループの中で、化学物質を取扱う主な事業会社は、事業特性上、協和発酵キリングループです。同社では化学物質に関する目標を設定し、取り組みを推進しています。

また、協和発酵キリンでは、「環境・安全・製品安全に関する基本方針」に基づいて、レスポンシブル・ケア活動を推進し、商品の研究段階から使用・廃棄にいたるまで各段階のアセスメントを厳しく運用しています

化学物質に関する目標

協和発酵キリングループ	化学物質排出量削減：2012年度化学物質排出量を2003年度比50%削減
-------------	--------------------------------------

PRTR 法第 1 種指定化学物質取扱量・排出量（協和発酵キリン）

（単位：t）

政令指定番号	物質名称	2009 年			2010 年			2011 年		
		大気排出量	水域排出量	土壌排出量	大気排出量	水域排出量	土壌排出量	大気排出量	水域排出量	土壌排出量
12	アセトアルデヒド ^{※1}	0.7	0.8	0.0	0.8	0.7	0.0	1.10	0.97	0.00
13	アセトニトリル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.02	0.00	0.00
20	2-アミノエタノール	16.9	0.8	0.0	16.7	1.0	0.0	15.04	1.00	0.00
35	イソブチルアルデヒド ^{※2}							0.52	1.50	0.00
53	エチルベンゼン							5.32	0.00	0.00
56	エチレンオキシド ^{※1}	1.3	0.1	0.0	5.8	0.1	0.0	1.00	0.86	0.00
80	キシレン	15.4	0.0	0.0	12.9	0.0	0.0	12.70	0.00	0.00
104	クロロジフルオロメタン ^{※3} （別名：HCFC-22）	0.7	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.35	0.00	0.00
127	クロロホルム ^{※1}	3.3	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	4.02	0.00	0.00
132	コバルト及びその化合物	0.0	1.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.01	1.40	0.00
232	N,N-ジメチルホルムアミド	0.1	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.84	0.00	0.00
257	デシルアルコール ^{※2}							0.01	0.00	0.00
275	ドデシル硫酸ナトリウム ^{※2}							0.00	0.02	0.00
288	トリクロロフルオロメタン ^{※3} （別名：CFC-11）	0.7	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.35	0.00	0.00
295	3,5,5-トリメチル-1-ヘキサノール	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.24	0.00	0.00
300	トルエン	1.4	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.95	0.00	0.00
319	1-ノナノール ^{※2}							0.01	0.00	0.00
392	ノルマル-ヘキササン ^{※2}							0.03	0.00	0.00
398	ベンジルクロリド	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.06	0.01	0.00
400	ベンゼン ^{※1}	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.34	0.00	0.00
411	ホルムアルデヒド ^{※1}	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.03	0.00	0.00
413	無水フタル酸	0.1	2.9	0.0	0.2	0.0	0.0	0.19	0.00	0.00
合 計		42.9	5.6	0.0	42.5	2.6	0.0	43.13	5.76	0.00
179	ダイオキシン類 (mg-TEQ)	90.5	1.4	0.0	15.6	2.4	0.0	53.8	1.0	0.0

※1 化学業界が定めた 12 化学物質に含まれる物質

※2 PRTR 法改正により 2010 年度から新規に第 1 種指定化学物質に追加されたもの

※3 フロンの冷凍機への補充量

※4 集計期間は 2009 年 4 月～2010 年 3 月です。なお過去のデータについては協和発酵キリングループサステナビリティレポート・CSR レポートをご覧ください。

規制対象物質の保管状況について

アスベスト

建屋数	面積
4 棟	3,238.2 m ²

フロン

事業所数	重量
30 箇所	93,036.09kg

PCB

高濃度コンデンサ・リアクトル等	微量コンデンサ・リアクトル等	高濃度安定器	微量安定器
365 台	23 台	9,230 個	278 台

以上、適切に管理または隔離するとともに、各々の法に従って順次処理を行なっています。

土壌汚染防止

キリングループでは、資産売却に伴う土壌汚染について調査のうえ適切に対応しています。

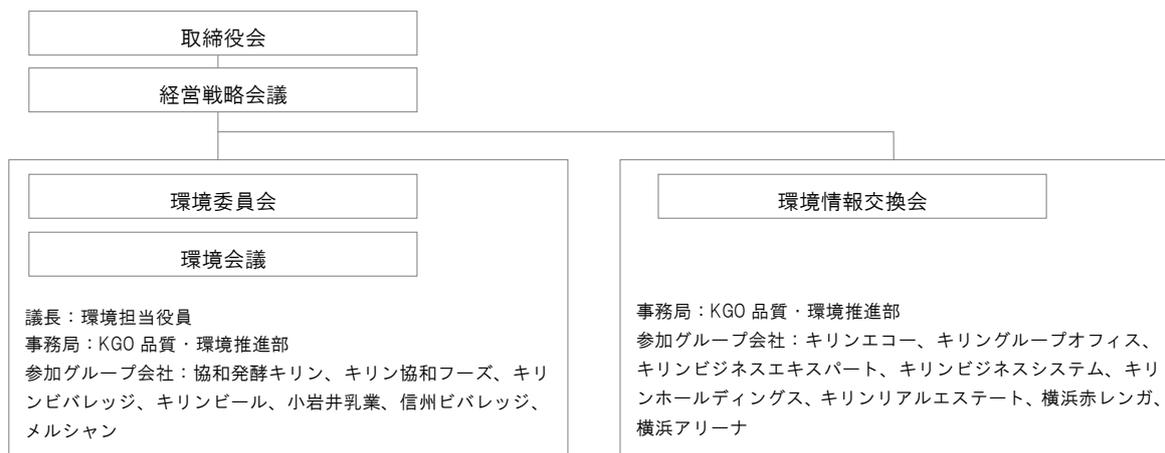
調査件数 (件)	108
調査面積 (m ²)	2,505,216

環境マネジメントの状況

■環境保全活動の推進体制

グループ環境管理体制

キリングroupの環境管理体制を明確化するため、2010年に「キリングroup環境基準」を策定しました。キリングgroup全体で環境保全活動を推進するため、グループ環境総括責任者をキリンホールディングス常務取締役（品質・環境担当役員）とし、主管部門をキリングgroupオフィスに置き、グループ各社の環境管理担当部署に環境管理推進担当者を配置しています。環境方針に沿った環境目標・経営計画の進捗管理や、環境リスク・順法管理、環境教育、内部監査などを行うことで、ガバナンスを強化しています。



環境管理に関する経営責任者

キリンホールディングス代表取締役常務取締役 中島 肇をグループ品質・環境担当役員に任命しています。

経営と一体化したマネジメント手法

環境に関する経営課題は、CSRに関する経営課題の中に設定されています。CSR課題に対する活動の多くは事業と密接に関係しているため、バランススコアカードを活用したキリングgroup独自のマネジメントの仕組みである「KISMAP」を活用し、CSRに関する活動の進捗を管理しています。

環境業績評価制度

環境業績評価は、キリングgroup独自のバランススコアカード KISMAP の運用に組み込まれています。この KISMAP の目標が、各組織・各個人の目標設定に反映され、目標の達成度に応じて、各組織・各個人の業績が評価されます。

内部表彰制度

	概要
キリングgroup技術賞	キリングgroup会社の最新研究・技術開発成果の中から顕著な創意工夫のあった技術開発者・研究者にインセンティブを与えることによって、グループ技術開発力の向上を図る。
キリンビール提案制度	会社の業務に有益な提案を奨励することによって、従業員の創意工夫の意欲を促し、全員の経営参画意識と一体感を高めることにより、目指す組織風土を醸成することを目的としています。
キリングgroupオフィス提案制度	キリンビールと同様の提案制度を2010年より開始しています。
キリンビバレッジ提案制度	日常の職務や職場での活動を通じて、業務の品質・生産性・効率の向上、又は円滑で快適な職場運営に寄与する従業員の創意工夫を促し、その活動を通して個人の成長を実現することを目的としています。
協和発酵キリン環境安全に係る表彰基準	環境安全に係る極めて顕著な業務貢献に対する表彰について定めています。

環境マネジメントの状況

■環境マネジメントシステム認証取得の状況

2012年7月現在の状況です。

ISO14001 認証取得状況

キリンビール

事業所	年月
統合認証（本社・9工場・7統括本部・2研究所） （事業所の認証取得経緯）	登録1997年3月21日 （統合認証2008年6月）
キリンビール(株)本社	2000年12月25日
北海道千歳工場	1998年10月30日
仙台工場	1999年9月29日
取手工場	1998年11月27日
横浜工場	1999年10月28日
名古屋工場	1998年5月27日
滋賀工場	1998年10月5日
神戸工場	1998年10月30日
岡山工場	1999年9月29日
福岡工場	1998年10月2日

キリンディスティラリー

事業所	年月
富士御殿場蒸留所	2000年11月

キリンテクノシステム

事業所	年月
(株)キリンテクノシステム本社	2001年10月26日
川崎事業所	2004年10月26日

キリンエンジニアリング

事業所	年月
キリンエンジニアリング(株)本社	2000年10月27日

メルシャン

事業所	年月
メルシャン(株)本社	2011年12月
八代工場	2000年4月
藤沢工場	2008年2月

キリンビバレッジ

事業所	年月
統合認証（本社・2工場） （事業所の認証取得経緯）	（統合認証2011年12月）
キリンビバレッジ(株)本社	2008年12月
湘南工場	2000年2月
舞鶴工場	1999年9月

小岩井乳業

事業所	年月
那須工場	2001年8月

キリンチルドビバレッジ

事業所	年月
本社工場	2005年8月

信州ビバレッジ

事業所	年月
本社工場	2011年11月

キリン協和フーズ

事業所	年月
土浦工場	2000年3月
日光工場	2009年12月

協和発酵キリン

事業所	年月
総合認証（本社・工場・研究所 サイト数8） （事業所の認証取得経緯）	登録2000年5月 （統合認証2009年5月）
高崎工場	2001年11月
富士工場	2000年5月
堺工場	2000年11月
四日市工場	2000年7月
宇部工場	2000年9月
東京リサーチパーク	2009年5月
協和メデックス 富士工場	2001年11月

協和発酵バイオ

事業所	年月
総合認証（本社・事業所・開発センター・工場 サイト数5） （事業所の認証取得経緯）	登録1999年7月 （統合認証2011年5月16日）
山口事業所防府	1999年7月
山口事業所宇部	2000年9月
ヘルスケア土浦工場	2000年3月

海外主要企業

ライオン	ビール部門	15の製造事業所のうち13(80%)において、ISO14001の認証取得済み。2014年末までに全ての製造事業所での取得を目指しています。
	食料・飲料部門	2012年に2つの製造事業所での認証取得を予定。
麒麟啤酒(珠海)有限公司		ISO14001 認証取得済み

エコアクション 21 認証取得状況

麒麟ホールディングス

事業所	年月
麒麟ホールディングス(株)フロンティア 技術研究所	2005年12月19日

横浜アリーナ

事業所	年月
(株)横浜アリーナ	2004年11月30日

最新情報については下記サイトをご参照ください。

<http://www.kirinholdings.co.jp/csr/env/iso.html>

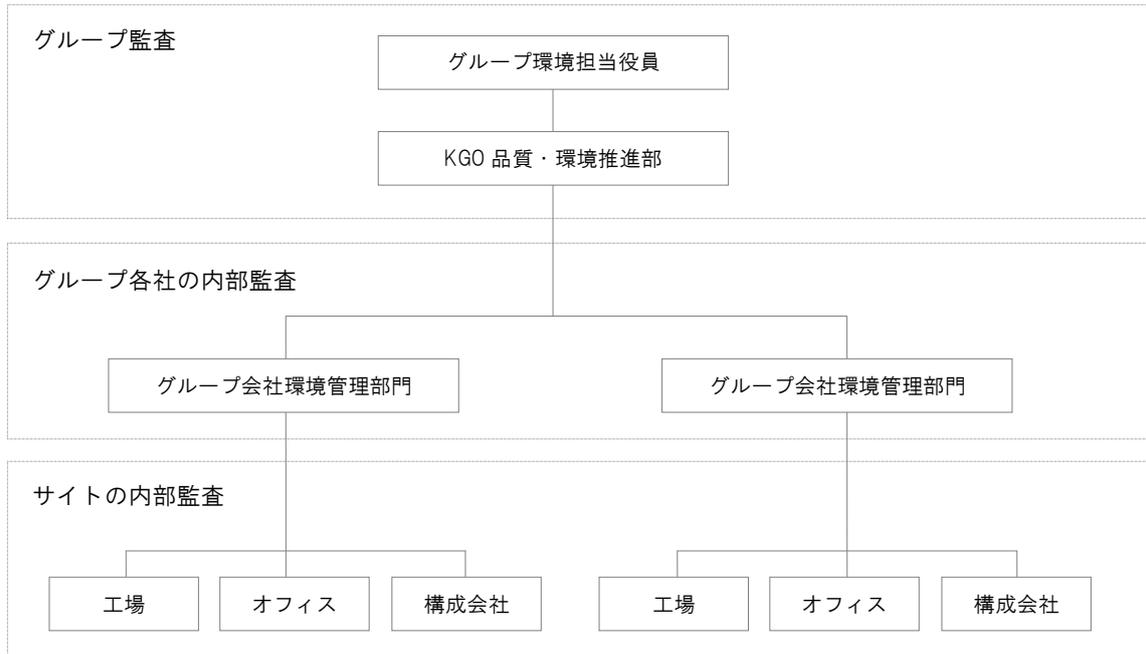
環境マネジメントの状況

■環境監査の状況

キリンホールディングスの各グループ会社ではISO14001等の環境マネジメントシステムに準拠して、各事業所・構成会社での内部監査及び各グループ会社本社環境管理部門による事業所及び構成会社への監査を行ない、各社の環境マネジメントシステムの改善につなげています。

さらにグループ全体としては、キリングroupオフィス品質・環境推進部による各グループ会社の環境監査を実施し、グループ環境担当役員に報告するとともに、マネジメントレビューにつなげています。2011年には、グループ環境基準を定めてグループ環境監査の対象範囲を拡大し、環境ガバナンスをさらに確実にしています。

環境監査の体制



環境監査実施状況（2011年）

年月日	会社	年月日	会社	ヒアリング内容
2011年7月28日	信州ビバレッジ	2011年9月20日	キリンビジネスシステム	グループ、自社の方針・目標の自社・構成会社への展開 目標・取り組みのモニタリング状況 環境定例会議体の運営状況 事故・ヒヤリハット報告体制 内部監査の実施状況 環境教育の実施状況 他
2011年7月29日	協和発酵キリン	2011年9月26日	横浜赤レンガ	
2011年8月1日	キリンビバレッジ	2011年9月28日	横浜アリーナ	
2011年8月2日	キリンビール	2011年10月4日	キリンホールディングス	
2011年8月2日	小岩井乳業	2011年10月5日	キリングroupオフィス／キリンビジネスエキスパート	
2011年8月3日	メルシャン	2011年10月5日	キリンリアルエステート	
2011年8月5日	キリン協和フーズ	2011年10月13日	キリンエコー	

環境マネジメントの状況

■環境教育

環境研修については、体系化を図っており、環境担当者向けの研修や、新入社員などの階層別研修にも環境教育が組み込まれています。また、キリンビールテクノアカデミーで実施する研修を国内キリングループにも開放しています。

2011年環境研修実績*

テーマ	人数
廃棄物関連	367名
排水処理関連	43名
内部監査・環境法令関連	152名

*キリンビールテクノアカデミーおよびキリンホールディングス開催の研修

■環境関連法規の遵守、法規違反・事故等の状況

環境法令遵守については、法的要求事項の台帳管理を徹底するとともに、事業所では法令の規制より厳しい自主管理値を設定して環境汚染の防止を徹底しています。

また、キリングループオフィス品質・環境推進部では、環境に関する法令の改正動向について定期的にグループ各社に発信し、各社ではこれを必要な事業所・部門と共有する体制を構築しています。

グループ内環境事故報告制度も整備して水平展開し、環境監査による法令遵守状況の確認も進めています。

2011年からは、事業所への外部コンサルタントによる厳格な環境法令監査を試行的に開始しています。2012年には対象事業所を増やすとともに、2013年からは制度化する方向で検討を進めています。

尚、環境リスクについてもリスクマネジメントの一環として位置づけられており、万が一環境リスクが顕在化した場合には、リスク担当役員の指示のもと、直ちに関連部門が連携して情報の共有、対策の実施、再発防止および水平展開などの対応を行ないます。

2011年、監視体制の不備により排水処理においてBOD*が基準を超えるという環境事故が発生しました。これに対して、速やかに行政に報告するとともに、監視体制を強化のうえで排水処理設備を増強するなどの対策を行い、再発防止を徹底しています。

*Biochemical Oxygen Demand 生物化学的酸素要求量の略。水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量のことで、河川の有機汚濁を測る代表的な指標。

環境マネジメントの状況

■環境に配慮した商品の開発

環境に適応した容器包装等設計基本方針

キリンビールでは、「環境に配慮した容器包装設計指針」を1998年に制定しています。

<p>環境に適応した容器包装等設計基本方針</p> <p>三つのRを基本として、発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)、環境への適応の観点から容器包装及び販売促進用ツール等の設計を行う。</p> <p>また、法令・自主基準を順守し、環境負荷の軽減をはかり、積極的に社会課題への対応を行う。</p> <p>1. 発生抑制</p> <p>(1)発生抑制の観点から、容器包装及び販売促進用ツール等の減量化に努め、材料の使用量をできるだけ少なくする。</p> <p>(2)リサイクル時や廃棄時に、折りたたみ、押しつぶし等により、できるだけ体積が小さくなるように減容化設計する。</p> <p>(3)単品の詰め合わせについて、簡易包装への切り替え、個別包装、外装の省略を推進し、包装の適正化をはかる。</p> <p>2. 再使用</p> <p>(1)再使用及び再充填が可能で、その回数ができるだけ多くなるような容器包装設計を目指す。</p> <p>3. 再生利用</p> <p>(1)再生利用を容易にするため、できるだけ単一素材を使用する。2種以上の材料を使用する場合は、簡単に分離が可能となるようにする。</p> <p>(2)再生された材料及び再生品使用比率の高い材料をできるだけ使用する。</p> <p>(3)再生利用に支障のある仕様・デザインは使用しない。</p> <p>(4)材質の識別表示を行い、消費者の分別排出を容易にし、分別収集による再生利用を促進する。</p> <p>4. 環境への適応</p> <p>(1)リサイクルや廃棄の処理が容易で、環境負荷の少ない材料を使用する。</p> <p>(2)製造及び物流工程において、エネルギー使用量及びCO₂等温室効果ガスの発生量の少ない材料を選定する。</p> <p>(3)焼却時に塩化水素ガスやダイオキシン等の毒性化合物の生成の危険がある塩素化ポリマー類は使用しない。</p> <p>(4)その他焼却時に有毒ガスの発生のあるものや、焼却灰に残留するおそれのあるものは使用しない。</p> <p>(5)洗浄時・使用時・廃棄時に有毒物質の発生するものは、使用しない。</p> <p>(6)LCA手法によるCO₂排出量ほか環境情報の「見える化」の推進をはかる。</p> <p style="text-align: right;">2012年8月改定、1998年6月制定</p>
--

環境に配慮した容器開発のための体制

キリンビール横浜工場・テクノビレッジセンター内にあるパッケージング開発センターでは、容器包装の技術開発戦略を立案・推進し、環境に配慮した容器の開発に取り組んでいます。その成果はグループ企業にも展開しています。

LCAへの取り組み

容器のLCA	<p>主要な容器については、適宜LCAを実施しています。例えば、びんであれば、ガラス、ラベルの紙、王冠など、すべてのパーツの原材料と原材料を作るためのエネルギーを算出します。使用後のリサイクルにかかるエネルギーも考慮に入れ検討します。商品の特性、お客様の1回当たりの購入単位、主な販売店の形態、空き容器回収の見込みなどを総合的に考えた上で、容器を選択しています。</p>
ビジネス全体のライフサイクルでの環境負荷削減	<p>キリングループでは、バリューチェーンでのCO₂排出量を把握するための仕組みを作り、事業領域別・工程別の環境への影響の大きさの評価を進めています。さらに、短・中期削減目標についても策定を予定しています。</p> <p>※詳細は、「地球温暖化防止」の項を参照してください。</p>
協和発酵キリンにおける事業活動のLCA	<p>協和発酵キリンでは、「環境・安全・製品安全に関する基本理念」に基づく行動指針において、下記を宣言しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業活動における安全の確保ならびに環境への負荷の低減を図るとともに、原料購入・製造・輸送・販売、さらには当社製品の消費者の使用・廃棄等における管理状況を把握し、製品の全ライフサイクルにわたり、環境・安全・製品安全の確保を図る。 ●新製品新技術開発、技術移転、新規事業展開にあたり、環境・安全アセスメントならびに品質アセスメントを実施し、計画段階から当該技術ならびに製品の全ライフサイクルにわたる、環境・安全・製品安全の確保に配慮する。

お客様に環境負荷低減を実感頂ける商品の開発・提案のガイドライン
キリンビール 「環境適合商品ガイドライン」

お客様に届くまで	原材料・資材	容器材料に再生原料を使用します
		容器製造時の CO ₂ や廃棄物削減ができています
		容器包装資材が削減できています
		水資源の保全を行っています
		生物多様性に配慮した原材料調達を行います
	製造	使用する水が削減できています
		使用するエネルギーが削減できています
		排出する CO ₂ が削減できています
		副産物・廃棄物が再資源化できています
	物流	CO ₂ 排出低減に配慮した物流です
飲んだ後は	リサイクル	リターナブルびんが回収できています
		空き缶が回収されています
		廃棄する容器包装が削減できています

キリンビバレッジ 「環境提案商品ガイドライン」

プロセス		項目	ガイドライン
お客様にお届けするまで	原料・資材	生物多様性・環境保護に配慮した原料・資材の採用（キリングループ生物多様性保全宣言の遵守）	原産地の状況を定期的に把握・対応し、環境汚染や自然破壊などにつながる原料・資材を使用していること 国産間伐材など、環境保護に配慮した資材を使用していること
		プロセス	
お客様にお届けするまで	原料・資材	3R(リデュース・リユース・リサイクル)に配慮した資材の使用	軽量でリサイクル適性の高い資材を使用していることまた、その向上に向けた業界の活動を促進すること、リターナブルびんを使用していること
		省エネルギーに配慮した原料製造	従来品に比べ、省エネルギー化につながる原料処方であること
	製造	省資源・省エネルギーに配慮した容器の開発・使用	従来品に比べ、軽量で品質保証が可能な容器であること 植物由来の資材など、従来品と同等の品質を維持し、省資源につながる資材を使用していること
		省エネルギーと環境汚染防止・CO ₂ 排出低減に配慮した製造方法	アセプティック（無菌）充填など、従来に比べ省エネルギーで大気・水質汚染や CO ₂ 排出量の少ない製造方法であること
物流	省エネルギー・CO ₂ 排出低減に配慮した物流	モーダルシフトや工場直送など、従来に比べ省エネルギー・CO ₂ 排出低減の物流システムであること	
お客様のご購入・飲用	販売	省エネルギー・CO ₂ 排出低減に配慮した販売方法	ノンフロンヒートポンプ自動販売機やエコカーの採用など、販売時における環境負荷が、従来よりも低減されていること
	飲用	どのようなお客様にも扱いやすい容器開発	ユニバーサルデザインの採用など、従来品に比べ扱いやすさが向上していること
飲んだあとは	廃棄・リサイクル	分別や回収が容易な容器包装	はがしやすいラベルや、つぶしやすいペットボトル、折りたたんでかさばらないカートンなど、分別や回収が容易な容器包装であること
		リサイクルしやすい容器包装	容器別業界基準に適合した、リサイクルしやすい容器包装を採用していること

メルシャン 「環境提案商品ガイドライン」

プロセス		基準項目
お客様にお届けするまで	原材料・資材	生物多様性を考慮した原材料を採用している。生物資源の持続可能な利用をしている。
		容器の軽量化による省資源が行われている。
		資材の製造工程で排出される CO ₂ が従来品に比べ削減されている。
	製造	製造工程で排出される CO ₂ が従来品に比べ削減されている。
		製造工程で使用する有機溶媒が従来品に比べ削減されている。またはより安全性の高い溶媒になっている。
	物流	物流工程で排出される CO ₂ が従来品に比べ削減されている。
環境負荷削減に配慮した物流が行われている。		

お客様の購入・飲用時	飲用時	環境表示がある。
		従来品よりも使いやすい容器を採用している。
		環境負荷配慮がある。(カーボンオフセット、環境関連の募金等)
飲んだ後は	廃棄・リサイクル	使用後の廃棄物量が従来品に比べ削減されている。
		リサイクルや廃棄しやすい機能がついている、解体しやすい設計になっている。

キリン協和フーズ

適用範囲

- キリン協和フーズで取り扱う製商品(自社製品、委託製造品、仕入品、輸入品を含む)

内容

- 設計・開発した製品の中で、特色を示すものを洗い出し、顧客へのPRとして活用する。

以下のものを環境提案商品と定義する。

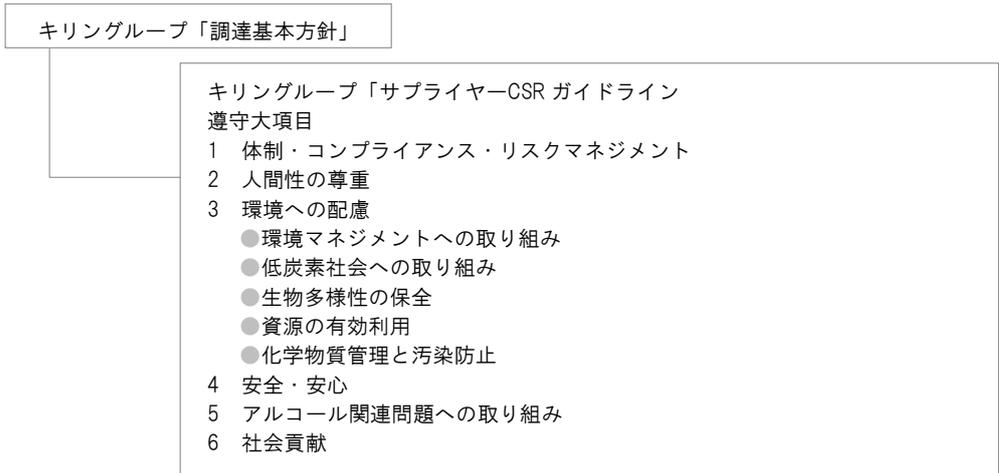
- 1) お客様の使用時における環境メリットがある製品 (省エネ効果、CO₂削減)
- 2) 環境メリットがある原料を使用した製品 (フードマイレージ: 輸送時にかかるCO₂削減)
- 3) 製造工程において環境メリットがある製品
(加工に係るエネルギー消費量が少ない、廃棄物の排出量が少ない、もしくは、リサイクル用途がある)

環境マネジメントの状況

■環境に配慮したサプライチェーンマネジメント

2011 年度、キリングgroupでは、社会からのニーズに柔軟に対応し、CSR 調達の強化を図るために、調達管理方針類の見直しを行いました。これに伴い、キリングgroup調達基本方針のもとに制定していた「グリーン調達基本方針」、「CSR 調達基本方針」および「CSR 調達ガイドライン」を一本化し、「キリングgroup・サプライヤーCSR ガイドライン」を策定しました。

調達に係る方針の再編



キリングgroup調達基本方針

キリングgroupは、お客様にとって価値のある安全・安心で高品質な商品・サービスを提供し、キリングgroup経営理念を実現するために、ご支援・ご協力のもとオープンでフェアな調達活動を実施します。

- 1. 品質本位**
 - 1) 調達活動においては、キリングgroupの「品質方針」に沿って品質と安全を優先し、さらにコストについても重視します。
 - 2) お客様にとっての価値を向上させる新しい技術やご提案を歓迎します。
- 2. オープンでフェアなお取引**
 - 1) サプライヤーの選定は、品質(Q)・コスト(C)・納期(D)・安定調達のほかに、CSR への取り組み、技術力、提案力等を総合的に評価したうえで行います。
 - 2) 複数のサプライヤーからの競争見積りによる調達を原則とし、公平な参入機会を提供します。
- 3. コンプライアンスの遵守**
 - 1) 社会規範、関連する法令およびその精神を遵守し、社会に信頼される良識のある活動を実施します。
 - 2) 調達に関わる担当者は、いかなるサプライヤーとも個人的な利害関係を持ちません。金額のいかんに関わらず謝礼や贈答品は受け取りません。寄付やグループの商品・サービス等の利用を強要しません。また、互惠取引を前提とした調達活動を実施しません。
- 4. 環境への配慮**
 - 1) 法令、条例、業界の自主基準に加えて、キリングgroup各社でも自主基準を設定し、自然と調和・共存する社会づくりを目指します。
 - 2) キリングgroupの「環境方針」に則り、環境への配慮、汚染の防止を心がけ、地球環境に配慮した調達活動を実践します。
- 5. サプライヤーとの相互の信頼と繁栄**
 - 1) サプライヤーと長期的な信頼関係を築き共存共栄を図ります。また、サプライヤーと協力しリスクの適切な管理と未然防止を徹底し、社会と経営への影響を回避する取り組みに努めます。
 - 2) サプライヤーにご提供頂いた個人情報および営業秘密については適切に管理し、ご提供者の了解なく社内外に公表しません。

2012 年 2 月改定

CSR 調達推進体制

キリングgroupでは、グループの機能分担会社であるキリングgroupオフィス調達部が、グループ全体の調達の統括・戦略推進を担っています。

2010 年の設立以来、50%以上を出資する国内グループ会社（構成会社を含む）を対象に、同社への調達業務の統合を進めてきました。今後は海外グループ会社も含め、共通のガバナンス体制のもと CSR 調達のさらなる強化を進めていく予定です。

サプライヤーへの協力依頼と進捗確認

キリングループでは、「サプライヤーCSR ガイドライン」に基づき、2012 年度よりガイドラインに沿ったサプライヤー調査を実施する予定です。CSR の観点での調査結果に基づく評価点は調達品の種類により異なりますが、100 点中 5 点～10 点を占めています。そのほか、環境や品質等の個別テーマについては必要に応じてサプライヤーへの要請や調査を実施しており、評価結果をサプライヤーへフィードバックすることで、継続的に CSR や環境・品質の向上に取り組んでいます。

また、サプライヤーの調査・評価を実施することと同時に、サプライヤーのキリングループの調達活動に対するご意見を把握するため、2009 年よりサプライヤーアンケートを定期的実施しています。2011 年度は、181 社のサプライヤーからご回答を頂き、「オープンでフェアな取引」、「コンプライアンスの遵守」を実現するために、高い責任感、倫理観を持って行動している点は、高く評価を頂きました。

新規サプライヤーすべてにグループの CSR への理解について調査を行っています。

※持続可能な資源利用についての調査については、「環境戦略と実績 生物多様性の保全」(19 ページ)をご参照ください。

グリーン調達・グリーン購入の実績

キリンビール	2011 年：グリーン購入比率 購入件数：76% 購入金額：74%
キリンビバレッジ	2011 年：グリーン購入比率 購入件数：91% 購入金額：87%
協和発酵キリン	2009 年：グリーン購入比率 81% 2010 年：グリーン購入比率 63% 2011 年：グリーン購入比率 79%

環境マネジメントの状況

■環境コミュニケーション

環境報告書等の発行を通じた情報開示

キリングループでは以下の報告書をはじめとして、web サイトを通じた情報開示や環境に関わるニュースリリース等、様々な情報開示・情報発信を行っています。

- キリングループサステナビリティレポート
<http://www.kirinholdings.co.jp/csr/editing/index.html>
- キリンビール環境報告書
<http://www.kirin.co.jp/csr/env/report/index.html>
- キリンビバレッジ環境報告書
<http://www.beverage.co.jp/csr/environment/index.html>
- メルシャン環境報告書
<http://www.mercian.co.jp/csr/eco/>
- 協和発酵キリングループ CSR レポート
<http://www.kyowa-kin.co.jp/csr/report/index.html>
- ライオンサステナビリティレポート
<http://www.lionco.com/sustainability/sustainability-reporting/>

投資家等への情報開示

名称		概要
地球温暖化防止	Carbon Disclosure Project	気候変動対策に関する投資家・企業・政府間の対話促進を目指した CDP (Carbon Disclosure Project : カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト) では、世界各国の主要企業に対して気候変動に対する戦略と温室効果ガス排出量に関する情報開示を求めています。 2011年、キリンホールディングスは、日本国内の時価総額上位 500 社 (Japan500) を対象とした CDP の調査で、トップの開示スコアを獲得し、開示最優秀企業に選定されました。
水資源	CDP Water Disclosure	キリングループは、水資源の使用状況を開示する世界的なプログラムである CDP Water Disclosure (CDP ウォーター・ディスクロージャー) に 2010 年から積極的に参加しています。
	Water Management Disclosure Rating	キリンホールディングスは、社会的責任投資を行う世界的な政府系ファンドのノルウェー政府年金基金 (グローバル) において、2011 年 Water Management Disclosure Rating のトップ 14 社に選ばれました。このレーティングは、同ファンドを運用する NBIM が定める水資源管理の期待水準に照らして、企業の水に関するリスクと機会の情報開示を評価したものです。

イベントを通じた環境コミュニケーション

イベント	概要
自動販売機に関する環境教育イベント	2011 年 7 月 20 日から 8 月 31 日までの間、キリンビバレッジと東京キリンビバレッジサービスは、科学技術館にて、自動販売機に関するイベントを実施しました。自動販売機のカットモデルやヒートポンプユニットを展示し、節電に際して電気使用量がどのように削減されているかを紹介しました。週末を中心とした計 9 日間には、自動販売機への商品補充体験を通じて、自動販売機の構造を実感いただきました。補充体験に併せて、節電の取り組みについてのアンケートにもたくさんの方にご回答いただきました。
クリーンスタジアム活動	キリングループは日本サッカー協会とともに、スタジアムでできる環境への取り組みとして、日本代表戦での「クリーンスタジアム活動」を展開しています。2003 年に開始したこの活動は、紙コップをはじめとしたゴミの分別回収と、試合後にボランティアで行うスタジアム内の清掃活動を中心に実施しています。そして、これらの活動に参加いただいたサポーターの皆さんを「クリーンサポーター」と呼び、その輪がさらに広がるよう、キリングループと日本サッカー協会が共同で呼びかけています。
環境美化活動	国内各地に工場や事業所を持つキリングループでは、地域社会の方々や NPO との協力により、周辺地域をはじめ近隣の海岸・河川清掃などの清掃活動に取り組んでいます。
「水の恵みを守る活動」	キリングループでは、1999 年以来、ビール工場近隣の水源地で森林保全活動を継続し、現在では日本全国 18 カ所の森林づくりに、グループを挙げて取り組んでいます。 この活動は海外にも広がっており、麒麟啤酒 (珠海) 有限公司でも、珠海淇澳 mangrove 自然保護区で植樹活動を行っています。

地域における環境教育プログラム

環境教育プログラム	概要
「夏休み環境教室」の開催	キリンビールおよびキリンディスティラリーの各工場では、次世代を担う小学生たちを対象に、参加型の環境教室を開催。クイズで環境について学びながら工場を見学する「キッズエコツアー」や、「エコ紙すきでリサイクルハガキづくり」を実施しています。
「理科実験教室」の開催	協和発酵キリン富士リサーチパークでは、2001年から毎年夏休みと春休みの年2回、近隣地区の小学4年生から中学生を対象に理科実験教室を開催しています。参加者には生物、化学の実験や観察を体験していただきました。
出前授業の実施	協和発酵キリン東京リサーチパークでは、2000年から実験機材一式を積み込んだ専用車（バイオアドベンチャー号）でボランティアの研究員が小中学校等を訪問して、遺伝子の仕組みや役立つ微生物等をテーマにした出前授業を行なっています。

商品の環境情報開示（環境ラベル）

環境ラベルの種類	概要
エコレール	キリンビバレッジは、鉄道貨物輸送を活用し、地球環境問題に積極的に取り組む企業として2006年3月に国土交通省が推進する「エコレールマーク」認定企業に選ばれました。エコレールマーク認定商品としては、「キリン生茶」、「キリン アルカリイオンの水」、「キリンレモン」、「午後の紅茶」、「キリンサブリ」があり、「キリン生茶」のケースにはエコレールマークを表示しています。キリンビールも2010年2月に「エコレールマーク」認定企業に選ばれました。
ECO-CERT	メルシャンでは、2009年より、有機栽培果実を100%使用し、世界的な有機認証機関である「ECOCERT（エコサート）」と「QAI（キューエーアイ）」の日本法人「ECOCERT-QAI JAPAN」の認証を受けた「ボン・ルージュ有機ワイン（赤、白）」を発売しています。
間伐材マーク	キリンビバレッジでは、2004年4月から「キリンハイパー」の容器に、紙パックとしてのリサイクルが可能なカートカンを採用しています。カートカンには、原料に国内の間伐材を30%以上使用しており、容器には「間伐材マーク」を表示しています。
カーボンフットプリント	キリンビールでは、LCAの手法を用いてライフサイクル全体のCO ₂ を評価するカーボンフットプリントについて、2008年からビール業界と共に取り組みを開始し、ビール類の算定ルールとなるPCR（Product Category Rule）が2011年2月に認定されました。キリンビバレッジにおいても2008年から清涼飲料業界と共に取り組みを開始し、清涼飲料PCRが2011年2月に認定されました。

政府・民間における環境保全プログラム等への自主的な参画の状況

プログラム	参画状況
TCGF	TCGF（The Consumer Goods Forum）とは、2009年6月に誕生したグローバルな消費財流通業界の組織体で、世界70カ国、650社以上の民間企業が人的ネットワークを構築しています。キリンホールディングスは、その理事会メンバーとして、2011年8年の「日本TCGF」の立ち上げに尽力し、サステナビリティプロジェクトの委員長社として、持続可能な社会の実現を目指した活動に取り組んでいます。
チャレンジ25キャンペーン	温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比25%削減することに向けた国民運動「チャレンジ25キャンペーン」にチャレンジャー企業として登録しています。キリングループの加盟会社はキリンビール、キリンビバレッジ、メルシャン、協和発酵キリンなどです。
エコ・ファースト推進協議会	キリンビールでは、2008年、「エコ・ファースト制度」に基づき「エコ・ファースト企業」の認定を受けました。2009年には、先行的に認定を受けた6社が発起人となり「エコ・ファースト推進協議会」を設立。キリンビールでは議長企業をつとめています。
排出量取引試行協議会	協和発酵キリンでは、2008年12月、化学業界の一員として排出量取引試行協議会に参加しています。
国連グローバルコンパクト	キリングループは、2005年9月に参加を表明し、従業員との関係や調達・開発・製造・販売などの企業活動の中で、グローバルコンパクトの原則実現につながる具体的な取り組みを進めています。
経団連自主行動計画	キリンビールが加入するビール酒造組合は、経団連「環境自主行動計画」に1997年の策定時から参加しており、ビール業界では、地球温暖化防止対策として2008～2012年度のビール工場におけるビール類生産時の平均CO ₂ 排出量を1990年比10%削減する目標を立てて取り組んでいます。キリンビバレッジが加入する全国清涼飲料工業会は、経団連「環境自主行動計画」に1997年の策定時から参加しており、清涼飲料業界では、地球温暖化防止対策として2008年度から2012年度のCO ₂ 排出原単位を平均で1990年度比6%削減することを目指しています。
生物多様性民間参画パートナーシップ	キリンホールディングスは、生物多様性に、より一層配慮した事業活動を推進するため公表された「日本経団連生物多様性宣言」に賛同し、「宣言推進パートナーズ」として参加しています。また、日本経済団体連合会と日本商工会議所、経済同友会の3団体が2010年に設立した「生物多様性民間参画パートナーシップ」に参加しています。
グリーン購入ネットワーク（GPN）	キリンビール、キリンビバレッジ、協和発酵キリン、キリン協和フーズでは、グリーン購入の促進のため、グリーン購入ネットワークの会員として、ガイドラインやデータベースづくり等の情報発信、普及啓発等の取り組みに協力しています。
容器&包装ダイエット宣言	キリンビバレッジ、メルシャンでは、九都県市（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市）がすすめている「容器包装ダイエット宣言」に賛同し、容器包装ダイエット宣言をして、容器・包装の軽減化に努めています。

<p>フォレスト・サポーターズ</p>	<p>「フォレスト・サポーターズ」は、「美しい森林推進国民運動」を全国各地で展開していくために、林業にたずさわる人や山村に暮らす人、都会に暮らす人や企業・団体などが集い、「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」の4つの活動を行うためのプラットフォームです。キリンビールではフォレスト・サポーターズとして活動に参加しています。</p>
<p>容器包装の環境負荷低減に関する政府との合意 (オーストラリア、ニュージーランド)</p>	<p>ライオンは、Australian Packaging Covenantに2000年から参加しています。これは、オーストラリアにおける消費者包装材の環境影響を低減するためのサプライチェーン企業と政府との合意です。また、New Zealand Packaging Accordに2004年から参加しています。これは、ニュージーランドにおける持続可能な包装材の使用を行うための産業界及び政府の自主的な取り組みです。</p>

【用語解説】

「エコ・ファースト制度」

環境保全に関する業界のトップランナー企業の行動を更に促進していくため、企業が環境大臣に対し、自らの環境保全に関する取組を約束する制度。

参考 URL : <http://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/index.html> (環境省)

「エコ・ファースト推進協議会」

エコ・ファースト企業の認定を受けている37社が、「エコ・ファーストの約束」の確実な実践と「エコ・ファースト企業」が連携して先進性・独自性に富む環境保全活動の推進を目的に設立した協議会。

参考 URL : <http://www.eco1st.jp/> (エコ・ファースト推進協議会)

「国連グローバルコンパクト」

各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組み。人権・労働基準・環境、腐敗防止の分野で中核的な10の原則を示しており、企業へそれらの原則を受諾し、支持し、遵守するよう求めている。環境に関する原則は、原則7：環境問題の予防的アプローチ、原則8：環境に対する責任のイニシアティブ、原則9：環境にやさしい技術の開発と普及の3つ。

参考 URL : <http://www.ungcjp.org/index.html> (グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク)

環境マネジメントの状況

■環境会計

環境保全コスト

分類	具体的な内容	投資額（百万円）			費用額（百万円）		
		2009年	2010年	2011年	2009年	2010年	2011年
	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷抑制のための環境保全コスト（下記(1)(2)(3)の計）	2,500	3,062	3,758	14,426	11,489	9,775
(1)公害防止コスト	大気汚染・水質汚染の防止活動、大気・水質などの分析測定	1,455	1,949	1,919	7,366	5,763	4,460
(2)地球環境保全コスト	太陽光発電、CO ₂ 回収、省エネルギー、コージェネレーションほか	639	479	1,381	2,468	2,268	1,654
(3)資源循環コスト	汚泥減量化、廃棄物再資源化、用水循環ほか	405	634	458	4,593	3,458	3,662
上下流コスト	容器包装リサイクル法再商品化委託費用	0	0	0	76	92	66
管理活動コスト	環境マネジメントシステム運用、環境教育、事業所内緑化ほか	9	24	21	1,538	1,264	1,587
研究開発コスト	容器軽量化、副産物・排水等の環境負荷を低減に関する研究開発	14	4	1	1,693	1,669	882
社会活動コスト	水の恵みを守る活動など環境保全活動費用、自然保護団体への寄付ほか	0	0	0	281	213	164
環境損害対応コスト		0	0	0	8	10	1
その他		0	0	0	1	4	0
計		2,523	3,090	3,780	18,025	14,740	12,474

資産除去債務について

2011年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。環境問題に関わる資産除去債務の算定対象項目は34ページ「規制対象物質の保管状況について」及び「土壌汚染防止」を反映しています。なお、資産除去債務については、有価証券報告書及び決算短信をご参照ください。

<http://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/library/tansin/>

経済効果

（単位：百万円）

項目	内容	2009年	2010年	2011年
有価物等の売却額	廃棄物再資源化ほか	321	77	95
資源節約効果額	省エネルギー、廃棄物削減、省資源ほか	633	929	616

集計範囲：

2009年：2009年1～12月 キリンホールディングス、キリンビール、キリンビバレッジ、2009年4月～2009年12月 協和発酵キリン、協和メデックス、協和発酵バイオ、協和発酵ケミカル

2010年：2010年1～12月 キリンホールディングス、キリンビール、キリンビバレッジ、協和発酵キリン、協和メデックス、協和発酵バイオ、協和発酵ケミカル

2011年：2011年1～12月 キリンホールディングス、キリンビール、キリンビバレッジ、協和発酵キリン、協和メデックス、協和発酵バイオ、第一ファインケミカル

環境省「環境会計ガイドライン（2005年版）」を参考にし、環境会計を開示しています。

別途の資産除去債務に関する会計基準については、2011年から適用しています。

環境パフォーマンスデータについては、「環境戦略と実績」（p7）をご覧ください。このうち、マテリアルバランスに関するデータはp8に掲載しています。

各事業会社の環境会計へのリンク

キリンビール <http://www.kirin.co.jp/csr/env/report/index.html>
 キリンビバレッジ <http://www.beverage.co.jp/csr/environment/index.html>
 協和発酵キリングループ <http://www.kyowa-kirin.co.jp/csr/report/index.html>

環境マネジメントの状況

■環境に配慮した投融資の状況

環境関連の投融資を受けた実績

DBJ 環境格付

2009年3月、キリンホールディングスは、日本政策投資銀行（DBJ）より環境格付融資を受けました。環境格付融資は、信用格付に加えて環境格付（環境経営度調査の結果）が融資条件に反映される優遇金利融資です。生物多様性への取り組みや、太陽光利用、バイオガス活用などによりCO₂を大幅に削減するなどの「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価され、最高ランクの格付を取得。さらに、モデル企業として特別表彰されました。この環境格付に基づき環境省の環境格付利子補給制度を活用した総額200億円のシンジケートローンを実行し、環境負荷低減のための設備投資を進めました。

環境マネジメントの状況

■環境への取り組みの歴史

環境年表

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2011年	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビジネスエキスパート改組・キリングループオフィス設立に伴い、キリングループオフィスに品質・環境推進部を設置（1月） ●キリングループ CO₂ 排出 SCOPE3 の第三者格付け取得 	<ul style="list-style-type: none"> ●協和発酵キリン宇部工場へ太陽光発電導入 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビバレッジ、PET ボトル用樹脂ラベルの水性インク印刷技術を開発 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビバレッジ、神奈川県と「森林再生パートナー制度」契約締結により、「キリンビバレッジかながわの森」誕生。
2010年	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビジネスエキスパートに品質・環境推進部を設置し、キリングループの品質・環境マネジメント統括機能を移管（3月） ●「キリングループ生物多様性保全宣言」を策定（10月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●協和発酵キリン東京リサーチパークへ太陽光発電システム導入（3月） ●キリンビバレッジ舞鶴工場へ天然ガスボイラ導入（5月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●無糖茶で国内最軽量の 2 リットル PET ボトル「NEW ペコロジー®ボトル」を「キリン生茶」リニューアル時に採用 ●国内最軽量の2リットルPET ボトル「NEW ペコロジー®ボトル」を「アルカリイオンの水」に採用 ●NEW ペコロジーボトルが「適正包装賞」、「アジアスター賞」、「ワールドスター賞」のトリプル受賞を達成 ●メルシャン、国産最軽量となる 720ml のワイン瓶を導入 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール福岡・佐賀両支社、ブリヂストンと協働で筑後川と有明海の環境保全に売上の一部を寄付
2009年	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンホールディングス CSR 推進部を CSR・品質推進部に改組、キリンビールに CSR 推進部設置（3月） ●協和発酵キリン ISO14001 統合認証取得（5月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●農林水産省・国家プロジェクトのバイオエタノール十勝プラント竣工（5月） ●「エコファースト推進協議会」が発足し、キリンビール社長が議長に就任（12月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール、6 缶バック板紙にショートガセットタイプを採用 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビバレッジ、ボルネオ保全トラストジャパンと共同でボルネオ支援自販機設置開始
2008年	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール ISO14001 統合認証取得（6月） ●キリングループ環境方針改訂（10月） ●キリンビバレッジ本社 ISO14001 取得（12月） 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境負荷低減を目指し、北海道地区一部でキリンビールとサッポロビールとの共同配送を開始 ●キリンビール社「エコ・ファーストの約束」宣言により環境省「エコ・ファースト制度」の製造業第 1 号として認定 	<ul style="list-style-type: none"> ●「麒麟本格焼酎タルチョ」がジャパンパッケージングコンペティション経済産業大臣賞を受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ●ユニーグループ共同企画「麒麟淡麗（生）緑の募金デザイン缶」売り上げ一部を国土緑化推進機構「緑の募金」寄付 ●キリンビール山陰支社「三朝・キリン恵みの森」、キリンビール北陸工場「能美里山の森」活動開始
2007年	<ul style="list-style-type: none"> ●純粋持株会社制導入にともない会社分割、キリンホールディングス(株)に商号変更(7月)し、CSR 推進部社会環境室設置 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール、農林水産省・国家プロジェクト「バイオ燃料地域利用モデル実証事業（北海道十勝地区）」に参画 ●環境負荷低減、コスト削減を目指してキリンビール、キリンビバレッジとサントリー社で資材調達協力について合意（缶蓋規格共有、ダンボール原紙共同調達） 	<ul style="list-style-type: none"> ●透明外装フィルムを装着しない「麒麟麦焼酎ピュアブルー1400ml 紙バック」がジャパンパッケージングコンペティション最高位の経済産業大臣賞を受賞 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンファーマ高崎工場「水源の森」活動開始 ●「クールビス・オブ・ザ・イヤヤー」（クールビス推進協議会主催）の「クールビズエグゼクティブ部門」をキリンホールディングス加藤社長受賞
2006年		<ul style="list-style-type: none"> ●太陽光発電導入（キリンビール福岡工場 20kW、広島ブルワリー 10kW、横浜工場 20kW、キリンビバレッジ湘南工場 60kW） ●オンサイト事業による天然ガスボイラシステムと NAS 電池導入（キリンビール取手工場） ●キリンビール、「横浜市風力発電事業」への協賛 		<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール福岡工場「水源の森」活動開始によりビール全工場の活動となる ●キリンディスティラリー御殿場蒸溜所「水源の森」活動開始

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2005年	<ul style="list-style-type: none"> ●キリン社の主要4研究所でEA21を取得 ●ISO14001グループ会社3事業所で取得 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール神戸工場へ太陽光発電システム導入(20kW) ●環境省が展開している地球温暖化防止「国民運動」「チーム・マイナス6%」に賛同し、「クールビズ」「ウォームビズ」などのCO₂削減に向けた活動に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビールとキリンビバレッジ、日本包装技術協会「木下賞」を「PETボトルの軽量化による環境対応」の取り組みで受賞 ●国内最軽量のPETボトル「ペコロジーボトル」を「キリン生茶」リニューアル時に採用 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール千歳工場、北陸工場、名古屋工場「水源の森」活動開始 ●キリンビール、株主優待「エコロー募金」を国土緑化推進機構「緑の募金」寄付
2004年	<ul style="list-style-type: none"> ●武田キリン社にてISO14001認証取得 ●キリンビール首都圏地区本部、横浜アリーナ、キリンダイニングにてEA21(EcoAction21)認証取得 ●主要物流会社計15社にてグリーン経営システム(交通エコロジー・モビリティ財団)認証取得 	<ul style="list-style-type: none"> ●バイオガスと都市ガス混焼ガスエンジン式コージェネレーション設備の導入(キリンビール横浜工場) ●キリンビール医薬部門の営業車を中心に一部ハイブリッド車導入開始 ●ビール工場で使用する燃料を重油から都市ガスへ転換(キリンビール千歳工場) 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール、ビール・発泡酒・チューハイ・清涼発泡飲料の250ml缶・350ml缶・500ml缶全商品にコーナークットカートンを採用 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール滋賀工場、取手工場「水源の森」活動開始
2003年	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール、第12回地球環境大賞経済産業大臣賞受賞 ●キリンビール、2004年中期計画策定に環境保全を全社の重点課題のひとつと設定 ●キリンビール新川本社ISO14001更新審査において企画管理部門に範囲拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●バイオガスを利用した新型燃料電池の実用化(キリンビール取手工場) ●キリンビール、営業車の軽自動車化開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール、軽量リターナブルびん100%切替完了(6月) ●グループダノンと共同開発した「ペコロジー®ボトル」を「キリンアルカリイオンの水2LPETボトル」リニューアル時に採用 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール栃木工場「水源の森」活動開始
2002年	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール地区本部での環境マネジメントシステム導入 	<ul style="list-style-type: none"> ●バイオガス・コージェネレーション設備の導入(キリンビール神戸工場) 	<ul style="list-style-type: none"> ●製缶時に環境負荷の低いaTULC缶を「キリン極生」に採用 ●キリンビール、リターナブルびんをこれまでのプリントびんからエンボス加工に順次切り替え 	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール岡山工場「水源の森」活動開始 ●キリンビール取手工場、岡山工場、滋賀工場ピオトープを造成
2001年	<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール本社・高崎医薬工場・各研究所で環境会計導入 ●「キリンビールにおける環境マネジメントの実践」(日科技連出版社)を出版 ●キリンビール高崎医薬工場でISO14001の認証取得(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●副産物の再資源化用途開発であるビール酵母食物繊維「BYC」を発売 		<ul style="list-style-type: none"> ●キリンビール仙台工場「水源の森」活動開始 ●キリンビール栃木工場ピオトープを造成 ●キリンビバレッジ「かながわ水源の森」パートナー参画

2000年以前の取り組みについては、下記サイトをご参照ください。

<http://www.kirinholdings.co.jp/csr/env/index.html>

外部表彰(環境全般)

年月	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2011年	キリンビール 滋賀工場	滋賀低炭素リーダー賞	CO ₂ 排出量削減取り組み	滋賀エコ・エコノミープロジェクト
2010年	キリンビール 滋賀工場	優良事業所環境パートナーシップ部門	公益社団法人滋賀県環境保全協会長表彰	公益社団法人滋賀県環境保全協会
2009年	小岩井乳業 小岩井工場	食品産業CO ₂ 削減大賞	優良賞	(株)日本総合研究所
2009年	キリンビール	ゼロエミッション啓発	感謝状	国連大学 ゼロエミッションフォーラム
2009年3月	神戸工場	エネルギー環境教育情報センター広報施設表彰	運営委員長奨励賞	財団法人 社会経済生産性本部 エネルギー環境教育財団 センター
2009年1月	岡山工場	平成20年度岡山市事業系ごみ減量化・資源化推進優良事業者表彰	最優秀賞	岡山市
2008年12月	横浜工場	平成20年横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市資源循環局 事業系対策課

年月	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2008年10月	神戸工場	第28回緑の都市賞	都市緑化基金会長賞	財団法人都市緑化基金
2008年7月	仙台工場	海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰	国土交通大臣賞	国土交通省
2008年6月	取手工場	平成20年「地球にやさしい企業表彰」	環境マネジメント	茨城県
2008年4月	北陸工場	いしかわ森林環境功労者表彰	石川県知事賞	石川県
2008年2月	神戸工場	平成19年度兵庫県環境にやさしい事業者賞	優秀賞	兵庫県環境政策課
2007年	福岡工場	エコ実践者活動	保険福祉環境事務所長表彰	福岡県
2007年	横浜工場	平成19年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2007年	神戸工場	地球温暖化防止活動知恵の環づくり特別賞		兵庫県
2007年	仙台工場	自然エネルギー等導入促進部門大賞	宮城県知事表彰	宮城県
2006年	神戸工場	地球温暖化防止活動環境大臣賞		環境省地球環境局
2006年	福岡工場	高圧ガス保安	経済産業大臣	高圧ガス保安協会
2006年	横浜工場	環境保全奨励賞	コージェネレーションシステム	日本コージェネレーションシステム
2005年	横浜工場	子ども省エネ大作戦2005	横浜市主催「子ども省エネ大作戦2005」への協力	特定非営利活動法人 国連 WFP 協会
2005年	横浜工場	環境管理事業所認定	横浜市より環境管理事業所として認定	横浜市環境創造局長
2003年	岡山工場の環境保全活動全般	環境おかやま大賞	環境おかやま大賞	岡山県
2003年	神戸工場の環境保全活動全般	神戸市環境功労賞	神戸市環境功労賞	神戸市
2003年4月	当社環境問題全般に対する取り組み	第12回地球環境大賞	経済産業大臣賞	(財)世界自然保護基金日本委員会 (WWF ジャパン)
2001年	北陸工場における環境保全活動全般	平成13年度いしかわグリーン企業	知事表彰	石川県
2001年	横浜工場における環境保全活動全般	かながわ地球環境賞	神奈川県知事表彰	神奈川県、かながわ地球環境保全推進会議
1997年10月	廃棄物ゼロ活動他全社的取り組み	第6回日食・環境資源協力賞	環境資源協力賞	日本食糧新聞社
1995年4月	当社環境問題全般に対する取り組み	第4回地球環境大賞	大賞	(財)世界自然保護基金日本委員会 (WWF ジャパン)

緑化表彰

年月	事業所	表彰名	表彰内容	実施団体
2011年	キリンディステリラー 富士御殿場蒸留所	平成23年緑化推進運動功労者	内閣総理大臣表彰	緑化推進連絡会議
2011年	キリンディステリラー 富士御殿場蒸留所	緑化優良表彰工場	経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2009年10月	協和発酵キリン高崎工場	緑化優良工場	日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター
2009年10月	キリンビール 神戸工場	緑化優良工場	緑化優良工場等経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2009年	キリンビール 北陸工場	白山市緑と花のまちなみ賞	事業所の部 優秀賞	石川県白山市
2008年	キリンビール 北陸工場	いしかわ森林環境功労者表彰	企業部門 県知事賞	石川県
2007年	福岡工場	緑化優良工場	緑化優良工場等経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2007年	北陸工場	白山市緑と花のまちなみ賞	事業所の部 優秀賞	石川県白山市
2007年	北陸工場	緑化優良工場	緑化優良工場等経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2006年	北陸工場	白山市緑と花のまちなみ賞	事業所の部 優秀賞	石川県白山市
2006年	滋賀工場	平成18年度緑化優良工場表彰	会長賞	(財)日本緑化センター
2005年	北陸工場	緑と花のまちなみ賞	事業所の部 優秀賞	石川県白山市
2004年	神戸工場	平成16年度緑化優良工場近畿経済産業局長表彰	緑化優良工場	(財)日本緑化センター

年月	事業所	表彰名	表彰内容	実施団体
2004年	北陸工場	緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
2004年	北陸工場	緑化優良表彰	中部経済産業局長賞	中部経済産業局
2003年	北陸工場	平成15年度 緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
2003年	北陸工場	平成15年度 緑と花のまちなみ賞	事業所の部 優秀賞	松任市
2001年	北陸工場	平成13年度 松任市緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
2001年	北陸工場	緑化優良表彰工場	日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター
2000年	神戸工場	緑化優良表彰工場	日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター
1999年	福岡工場	水源の森基金	感謝状	(財)福岡県水源の森基金
1999年	北陸工場	平成11年度 松任市緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
1998年	北陸工場	緑化優良表彰工場	会長奨励賞	(財)日本緑化センター
1998年	栃木工場	緑化優良表彰工場	通商産業局長賞	(財)日本緑化センター

省エネルギー表彰

年月	事業所	表彰名	表彰内容	実施団体
2010年	小岩井乳業 那須工場	平成21年度 エネルギー管理功績者	関東経済産業局長賞	関東経済産業局
2010年	キリンビール 名古屋工場	エネルギー管理優良事業者	中部経済産業局長表彰	中部地方電気使用 合理化委員会
2009年	キリンビール 滋賀工場	平成21年優良ボイラー 技士ボイラー協会会長表彰	優れたボイラー技師として、永年 に亘る業務に対する功績の評価	日本ボイラー協会
2009年	小岩井乳業 那須工場	平成20年度 関東地区電気使用合理化委員会 委員長賞	功績者賞	関東地区電気使用 合理化委員会
2008年	岡山工場	平成20年省エネルギー優秀事例 全国大会	中国経済産業局長賞	省エネルギーセンター
2006年	神戸工場	ひょうごバイオマス ecoモデル登録証授与賞	ビール工場の有機物性廃水処理 における発生バイオガスによる コージェネレーション	兵庫県農林水産部 農政企画局
2006年	北陸工場	エネルギー管理（電気部門）表彰		中部経済産業局
2006年	仙台工場	平成18年優良ボイラー 技士ボイラー協会 会長表彰	優れたボイラー技師として、永年 に亘る業務に対する功績の評価	日本ボイラー協会
2005年	北陸工場	省エネルギー優秀事例	会長賞	省エネルギーセンター
2004年	北陸工場	省エネルギー優秀事例	排水処理ブロワとブライン 冷凍機の電力量削減の取り組み	省エネルギーセンター
2004年	北陸工場	ウェステック大賞2004	事業活動部門賞	ウェステック実行委員会
2004年	神戸工場	省エネルギー実施 優秀事例 資源エネルギー庁長官賞	消化ガスコージェネレーション システムと生物脱硫システムに よる省エネ対策	省エネルギーセンター
2003年	神戸工場	省エネルギーセンター 優良賞	全員参加による省エネ推進	省エネルギーセンター
2003年	千歳工場	エネルギー電気管理 優良工場	資源エネルギー庁長官賞	経済産業省
2002年	神戸工場	平成13年度 エネルギー管理優良工場	近畿経済産業局長表彰	近畿経済産業局
2002年	神戸工場	第3回あおぞら大賞	兵庫県大気環境保全連絡協議会 会長賞	兵庫県大気環境保全 連絡協議会
2001年	神戸工場	エネルギー管理優良工場（熱部門）	局長賞	省エネルギーセンター 近畿経済産業局
2001年	神戸工場	エネルギー実施優秀事例グループ	局長賞	
2000年	岡山工場	エネルギー管理功労者（電気部門）	局長表彰	中国通産局
2000年	岡山工場	エネルギー管理優良工場（熱部門）	局長表彰	中国通産局
2000年	千歳工場	エネルギー管理優良工場（電気部門）	通商産業局長賞	通商産業省
2000年2月	北陸工場	エネルギー管理優良工場（電気部門）	通商産業大臣賞	通商産業省
1998年2月	京都工場	エネルギー管理優良工場（電気部門）	通商産業局長賞	通商産業省

リサイクル表彰

年月	事業所	表彰名	表彰内容	実施団体
2011年	キリンビール 名古屋工場	平成23年度3R推進功労者表彰	3R推進協議会会長賞	3R推進協議会
2011年	メルシャン	平成23年度3R推進功労者表彰	3R推進協議会会長賞	3R推進協議会
2011年	キリンビール 横浜工場	平成23年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2010年	キリンビール 横浜工場	平成22年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2009年	キリンビール 横浜工場	平成21年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2009年	キリンビール 岡山工場	平成21年度 3R推進功労者表彰	3R推進協議会会長賞	3R推進協議会
2008年	キリンビール 横浜工場	平成20年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2008年10月	神戸工場	平成20年度 3R推進功労者表彰	財務大臣賞	3R推進協議会
2007年	キリンビール 横浜工場	平成19年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2006年	取手工場	茨城県リサイクル優良事業所	茨城県知事	茨城県廃棄物再資源化 指導センター
2005年	岡山工場	エコ事業所認定工場 (ゼロエミッション部門)		岡山県
2002年	滋賀工場	リサイクル推進協議会会長賞	会長賞	3R推進協議会
2001年	横浜工場	神奈川県 廃棄物自主管理調整会議	優秀賞	神奈川県、横浜市、 川崎市、横須賀市
2001年	神戸工場	リサイクル推進協議会会長賞	会長賞	3R推進協議会
1998年1月	全社	第27回食品産業功労賞	資材・機械・設備部門	食品産業新聞社

地球温暖化防止表彰

年月	事業所	表彰名	表彰内容	実施団体
2011年	キリンビバレッジ 湘南工場	平成23年度神奈川県環境保全 (大気・水・土壌関係)功労者表彰		神奈川県
2010年	キリンビール 横浜工場	第一回かながわ地球温暖化防止 対策大賞	温室効果ガス 削減実績部門	神奈川県
2009年	キリンビール 神戸工場	エネルギー環境教育 情報センター表彰	運営委員長 奨励賞	(財)社会経済生産性本部・ エネルギー環境 教育情報センター
2009年1月	福岡工場	平成20年度 地球温暖化防止環境大臣表彰		環境省
2009年10月	協和発酵バイオ 山口事業所(宇部)	山口県環境生活功労者知事表彰 (地球温暖化対策優良事業所)	知事表彰	山口県
2008年11月	神戸工場	地球温暖化防止活動 知恵の環づくり表彰	敢闘賞	兵庫県地球温暖化防止 活動推進センター・ ひょうご環境創造協会
2006年	神戸工場	地球温暖化防止活動 環境大臣賞	温室効果ガスの排出低減に対して	環境省地球環境局
1998年6月	ビール生産部門	環境保全功労者等表彰	地球温暖化防止部門	環境庁

容器包装

年月	企業	表彰名	表彰内容	実施団体
2011年	キリンビバレッジ	第21回日本清涼飲料研究会「日本 清涼飲料研究会賞」	「NEWベコロジーボトル」	社団法人 全国清涼飲料工業 会
2010年	キリンビバレッジ	2010日本パッケージング コンテスト「適正包装賞」	「NEWベコロジーボトル」	社団法人日本包装技術協会
2010年	キリンビバレッジ	アジアスター2010コンテスト 「アジアスター賞」	「NEWベコロジーボトル」	アジア包装連盟
2010年	キリンビバレッジ	ワールドスター2010コンテスト 「ワールドスター賞」	「NEWベコロジーボトル」	世界包装機構
2008年	キリンビール	経済産業大臣賞	「麒麟本格焼酎タルチョ」	ジャパンパッケージングコン ペティション
2007年	キリンビール	経済産業大臣賞	透明外装フィルムを装着しない 「麒麟麦焼酎ピュアブルー」 1400ml紙パック	ジャパンパッケージングコン ペティション
2005年	キリンビール、 キリンビバレッジ	木下賞	PETボトルの軽量化による環境対応	日本包装技術協会

環境広報（除く広告）

年月	表彰名	表彰内容	実施団体
2011年	第15回環境コミュニケーション大賞	環境報告優秀賞	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2005年5月	第8回環境報告書賞	継続優秀賞	(株)東洋経済新報社
2004年5月	第7回環境報告書賞	継続優秀賞	(株)東洋経済新報社
2003年6月	第6回環境報告書賞	継続優秀賞	(株)東洋経済新報社
2003年5月	第3回みんなで選ぶエコWEB大賞	特別審査員賞	エコロジーシンフォニー
2003年1月	第6回環境レポート大賞	優秀賞(環境報告マイスター賞)	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
2002年5月	第5回環境報告書賞	優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティングフォーラム
2001年11月	第5回環境レポート大賞	優秀賞	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
2001年5月	第4回環境報告書賞	優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティングフォーラム
2000年11月	第4回環境レポート大賞	優秀賞	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
2000年4月	第3回環境報告書賞	優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティングフォーラム
1999年11月	第3回環境レポート大賞	大賞	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
1999年4月	第2回環境報告書賞	優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティングフォーラム
1998年4月	第1回環境報告書賞	優秀賞 特別賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティングフォーラム
1997年	環境アクションプラン大賞	環境庁長官賞	(社)全国環境保全推進連合

環境広告

年月	表彰名	表彰内容	実施団体
2006年	第36回フジサンケイグループ広告大賞	雑誌優秀賞	フジサンケイグループ
2005年	オレンジページ広告大賞	審査員特別賞	(株)オレンジページ
2004年	環境goo大賞	優秀賞一環境教育	環境goo
2003年	環境goo大賞	優秀賞一総合	環境goo
2003年	環境広告コンクール	雑誌部門環境大臣賞	NPO法人地域交流センター/ 日本経済新聞社
2003年	消費者のためになった広告コンクール	雑誌L部門金賞	(社)日本広告主協会
2003年	消費者のためになった広告コンクール	雑誌L部門金賞	(社)日本広告主協会
2003年	東京インタラクティブアワード	ビヨンド広告部門 入賞	インターネット広告推進協議会
2002年	消費者のためになった広告コンクール	雑誌広告部門 金賞 雑誌広告部門 銅賞	(社)日本広告主協会
2001年	消費者のためになった広告コンクール	雑誌広告部門 銀賞	(社)日本広告主協会
2000年	環境広告コンクール	大賞	NPO法人地域交流センター/ 日本経済新聞社
2000年	消費者のためになった広告コンクール	雑誌広告部門 金賞	(社)日本広告主協会
2000年	日経広告賞	優秀賞	日本経済新聞社
2000年	日本雑誌広告賞	銀賞	日本雑誌広告協会

最新情報については下記サイトをご参照ください。 <http://www.kirinholdings.co.jp/csr/env/honor.html>

サイトデータ

キリンビール（2011年実績）

工場	インプット		アウトプット	
	項目	実績	項目	実績
北海道千歳工場	エネルギー原単位	2.0 (GJ/kl)	CO ₂ 原単位	84 (KG/kl)
	用水原単位 (千歳川水系)	4.5 (m ³ /kl)	排水原単位	3.6 (m ³ /kl)
仙台工場	エネルギー原単位	3.4 (GJ/kl)	CO ₂ 原単位	160 (KG/kl)
	用水原単位 (名取川水系)	12.9 (m ³ /kl)	排水原単位	11.9 (m ³ /kl)
取手工場	エネルギー原単位	2.0 (GJ/kl)	CO ₂ 原単位	87 (KG/kl)
	用水原単位 (利根川水系)	6.5 (m ³ /kl)	排水原単位	6.2 (m ³ /kl)
横浜工場	エネルギー原単位	1.5 (GJ/kl)	CO ₂ 原単位	76 (KG/kl)
	用水原単位 (相模湖水系)	5.8 (m ³ /kl)	排水原単位	4.5 (m ³ /kl)
名古屋工場	エネルギー原単位	1.7 (GJ/kl)	CO ₂ 原単位	83 (KG/kl)
	用水原単位 (木曽川水系)	5.5 (m ³ /kl)	排水原単位	4.9 (m ³ /kl)
滋賀工場	エネルギー原単位	2.2 (GJ/kl)	CO ₂ 原単位	87 (KG/kl)
	用水原単位 (琵琶湖水系)	5.6 (m ³ /kl)	排水原単位	5.4 (m ³ /kl)
神戸工場	エネルギー原単位	1.4 (GJ/kl)	CO ₂ 原単位	57 (KG/kl)
	用水原単位 (三田浄水場/千刈浄水場)	3.6 (m ³ /kl)	排水原単位	3.1 (m ³ /kl)
岡山工場	エネルギー原単位	1.5 (GJ/kl)	CO ₂ 原単位	79 (KG/kl)
	用水原単位 (吉井川水系)	4.6 (m ³ /kl)	排水原単位	4.1 (m ³ /kl)
福岡工場	エネルギー原単位	1.4 (GJ/kl)	CO ₂ 原単位	68 (KG/kl)
	用水原単位 (筑後川水系)	4.9 (m ³ /kl)	排水原単位	4.9 (m ³ /kl)

協和発酵キリン（2010年実績）

事業所	項目	実績		項目	実績	
協和発酵キリン 富士工場・ 富士リサーチパーク	エネルギー原単位	0.22	(KL/m ² 床面積)	総合排水量	2.2	(t)
	CO ₂ 排出量	21,036	(t)	廃棄物発生量	644	(t)
協和発酵キリン 高崎工場	エネルギー原単位	15.7	(KL/億 円-製品)	総合排水量	0.22	(t)
	CO ₂ 排出量	15,387	(t)	廃棄物発生量	224	(t)
協和発酵キリン 堺工場	エネルギー原単位	0.14	(KL/m ² 床面積)	総合排水量	0.03	(t)
	CO ₂ 排出量	2,960	(t)	廃棄物発生量	196	(t)
協和発酵キリン 東京リサ- ーチパーク	エネルギー原単位	0.119	(KL/m ² 床面積)	総合排水量	0.034	(t)
	CO ₂ 排出量	4,384	(t)	廃棄物発生量	191	(t)
協和メデックス 富士工場	エネルギー原単位	15.3	(KL/億 円-製品)	総合排水量	0.03	(t)
	CO ₂ 排出量	2,752	(t)	廃棄物発生量	94	(t)
協和発酵バイオ 山口事業所 防府	エネルギー原単位	0.91	(KL/t- 生産量)	総合排水量	18	(t)
	CO ₂ 排出量	120,297	(t)	廃棄物発生量	13,654	(t)
協和発酵バイオ 山口事業所 宇部 (協和発酵キリン 宇部 工場含む)	エネルギー原単位	4.3	(KL/t- 生産量)	総合排水量	21	(t)
	CO ₂ 排出量	40,017	(t)	廃棄物発生量	7,941	(t)

メルシャン（2011年実績）

	自社工場からの CO ₂ 排出量 (t)	自社工場の製造 用水使用量 (千 t)	自社工場の廃棄物量 未利用の廃棄物量 (t)	再資源化率 (%)
藤沢工場	6,399	280	155	79.2
シャトー・メルシャン	347	46	18	38.8
八代工場	64,938	4,394	0	100
磐田工場	2,497	441	33	89.3

※八代工場は 2011 年 7 月 1 日に、医薬・化学品事業を三井物産株式会社に、2011 年 4 月 1 日に、水産飼料事業を東海シープロ株式会社に譲渡いたしました。

※磐田工場は 2011 年 7 月 1 日に、医薬・化学品事業を三井物産株式会社に譲渡いたしました。

キリングループ概要

会社概要

(2011年12月31日現在)

商号	キリンホールディングス株式会社
設立	1907年(明治40年)2月23日 ※2007年7月1日純粋持株会社化に伴い、「麒麟麦酒株式会社」より商号変更
本社所在地	〒104-8288 東京都中央区新川二丁目10番1号 TEL 03 (5541) 5321 (代表)
代表取締役社長	三宅 占二 (みやけ せんじ)
資本金	102,045,793,357 円
従業員数	251人 (キリンホールディングス連結従業員数: 40,348人)

事業の内容

国内酒類事業	麒麟麦酒(株)(連結子会社、平成19年7月に当社より国内酒類事業を承継)は、ビール・発泡酒・新ジャンル・その他酒類等の製造・販売を行っております。お客様接点におけるマーケティング活動を強化するため、平成24年1月にキリンマーチャンダイジング(株)(連結子会社)の酒類部門と麒麟麦酒(株)の営業部門を統合しキリンビールマーケティング(株)(連結子会社)を設立しております。同社は業務用市場・量販市場での価値創造、販売マーケティング活動、ブランド価値を伝えるプロモーション開発といった多様な営業活動を展開しております。キリン物流(株)(連結子会社)は、貨物の自動車運送を、キリンエンジニアリング(株)(連結子会社)は、食品関連産業等を対象とするエンジニアリング事業を、それぞれ行っております。メルシャン(株)(連結子会社)は、酒類の輸入・製造・販売を行っております。
国内飲料事業	キリンビバレッジ(株)(連結子会社)は、清涼飲料の製造・販売を行っております。東京キリンビバレッジサービス(株)(連結子会社)は、首都圏において清涼飲料の販売を、キリンエムシーダノンウォーターズ(株)(連結子会社)は、ミネラルウォーターの輸入・製造・販売を、キリン・トロピカーナ(株)(持分法適用関連会社)は、果実飲料の製造・販売を、それぞれ行っております。
海外酒類・飲料	LION PTY LTD(連結子会社)は、豪州およびニュージーランドでビール・ワイン・乳製品・果汁飲料の製造・販売を行っております。SAN MIGUEL BREWERY INC.(持分法適用関連会社)は、フィリピン等でビールの製造・販売を行っております。The Coca-Cola Bottling Company of Northern New England, Inc.(連結子会社)は、米国でコカ・コーラ製品の製造・販売を行っております。Schincariol Participacoes e Representacoes S.A.(連結子会社)は、ブラジルでビール・清涼飲料の製造・販売を行っております。
医薬・バイオケミカル	協和発酵キリン(株)(連結子会社、東京証券取引所市場第一部上場)は、医療用医薬品の製造・販売を行っております。また、KIRIN-AMGEN, INC.(持分法適用関連会社)は、医薬品の研究開発を行っております。
その他事業	小岩井乳業(株)(連結子会社)は、牛乳・乳製品等の製造・販売を、キリン協和フーズ(株)(連結子会社)は、調味料等の製造・販売を行っております。Fraser and Neave Limited(持分法適用関連会社)は、シンガポール・マレーシアで不動産事業及び食品・飲料事業を行っております。

財務ハイライト

連結売上高

(単位: 億円)

2009年	2010年	2011年
22,784	21,778	20,717

連結営業利益

(単位: 億円)

2009年	2010年	2011年
1,284	1,516	1,428

連結当期純利益

(単位: 億円)

2009年	2010年	2011年
491	113	74

セグメント別データ

セグメント別売上高 (2011年)

(単位: 億円)

国内酒類	国内飲料	海外酒類・飲料	医薬・バイオケミカル	その他
8,682	3,145	4,542	3,328	1,019
42%	15%	22%	16%	5%

セグメント別営業利益 (2011年)

(単位: 億円)

国内酒類	国内飲料	海外酒類・飲料	医薬・バイオケミカル	その他
705	28	153	494	62
49%	2%	11%	35%	4%

従業員数 (2011年12月31日現在)

国内酒類	国内飲料	海外酒類・飲料	医薬・バイオケミカル	その他	全社(共通)
7,165	4,393	19,032	7,229	2,278	251